

鎌倉市教育委員会
多様な学びの場づくり担当



いろいろな学びの場づくり アンケート

～教室に入りづらい子どもたちへの支援の充実に向けて～

結果報告

令和5年10月

はじめに

今回の調査では、保護者954名、児童生徒962名の回答をいただきました。（回答率約1割）ご協力いただいた児童生徒・保護者の皆さん、誠にありがとうございました。

今回の調査で得られた結果や声は本市の多様な学びの場を整備していくうえで大変貴重な資料となります。いただいたご意見を踏まえながら、子どもたちへの支援の充実に努めてまいります。

も く じ

*タップして該当ページへジャンプ

- 1 [調査について](#)
- 2 [登校状況について](#)
- 3 [相談について](#)
- 4 [安心して学習できる場所について](#)
- 5 [教育支援教室ひだまりについて](#)
- 6 [かまくらULTLAプログラムについて](#)
- 7 [ロートこどもみらい財団について](#)
- 8 [校内フリースペースについて](#)
- 9 [学校に通いづらい生徒のための「特例校」について](#)
- 10 [多様な学びの場づくりについて](#)

いろいろな学びの場づくり アンケート

～教室に入りづらい子どもたちへの支援の充実に向けて～

鎌倉市教育委員会
多様な学びの場づくり担当



1 調査について

調査の目的と概要

調査の目的

- 不登校児童生徒支援に関するアンケート調査を行い、必要な支援についてのニーズを把握し、今後の支援の充実に活かしていく。
- 鎌倉市が行っている不登校児童生徒支援に関する施策の周知の機会とする。

調査対象とサンプルサイズ

- 鎌倉市立小中学校に在籍する小学校3年生～中学校3年生の児童生徒
- 鎌倉市立小中学校に在籍する小学校1年生～中学校3年生の保護者

	小1	小2	小3	小4	小5	小6	中1	中2	中3	合計
保護者	156	108	132	110	111	95	86	74	82	954
児童生徒	対象外	対象外	112	112	111	94	211	167	155	962

調査の目的と概要

■ 調査時期

令和5年6月30日～8月10日

■ 調査方法

- 学校を通じて保護者宛依頼文を配布
- 保護者および児童生徒はGoogleフォームでアンケートに回答
- 回答はすべて匿名

いろいろな学びの場づくり アンケート

～教室に入りづらい子どもたちへの支援の充実に向けて～

鎌倉市教育委員会
多様な学びの場づくり担当



2 登校状況について

登校状況について

Summary

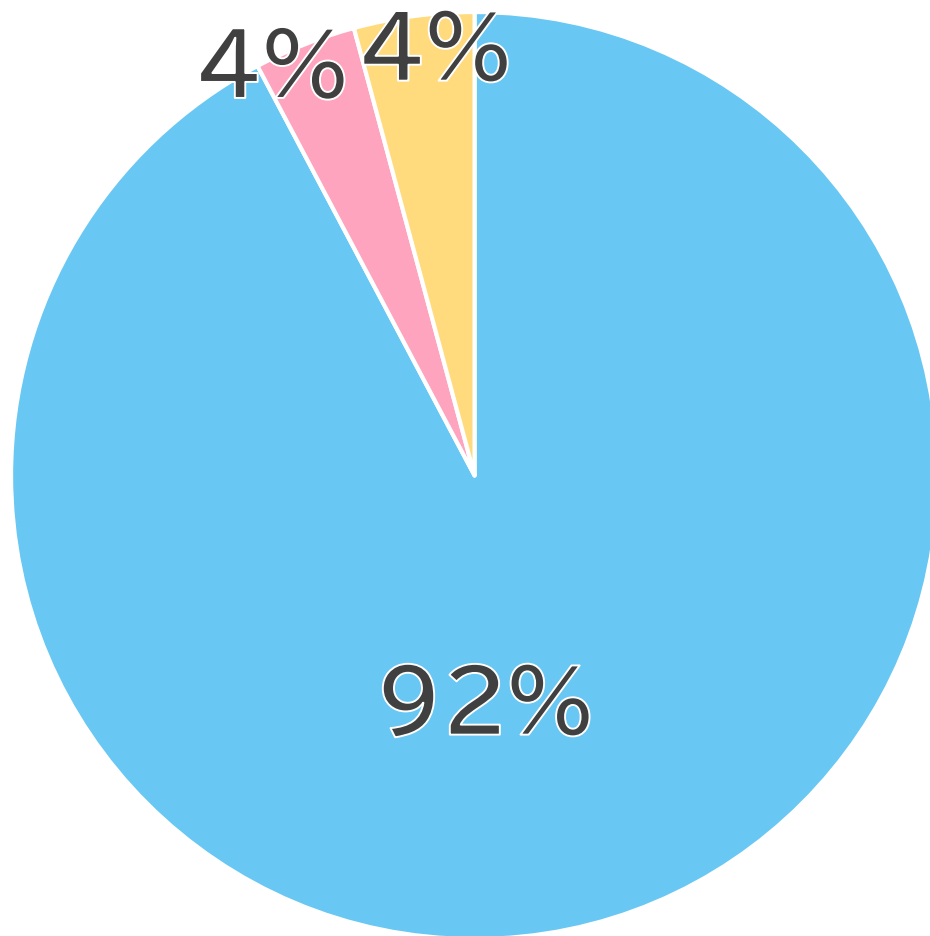
休みがちの子は、登校しても「教室にいるのがつらい」と感じている割合が高い

学校での様子について、「教室にいるのがつらい」または「教室に入れていない」と回答した割合は、「ほぼ毎日登校している」と回答した保護者・児童生徒はともに3%と少数であるのに対し、「休みがち」と回答した保護者では71%、児童生徒は46%と高い割合となっている。

また、「ほぼ毎日登校」かつ「だいたい楽しく通えている」以外を回答した児童生徒のみを対象した質問「いま支援してほしいことは何ですか」では、約半数が学校の中または学校の外で「居場所や学べる場所が欲しい」と回答している。

回答者の登校状況

保護者

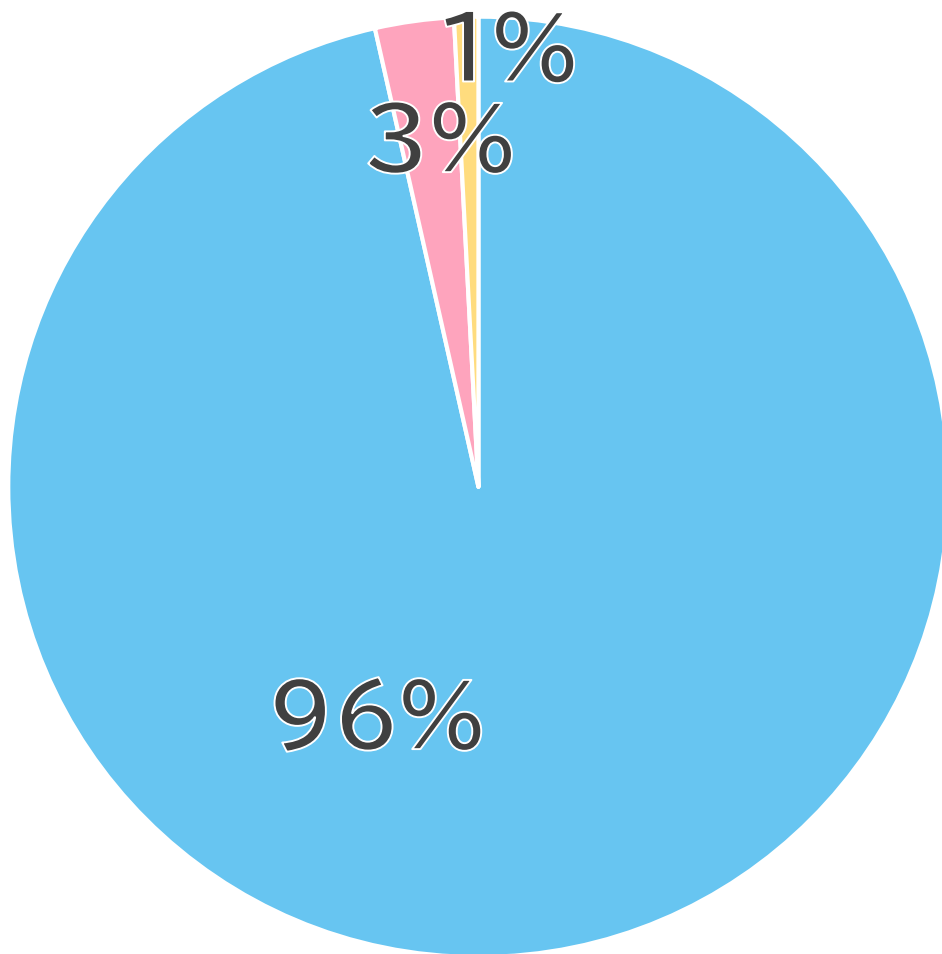


ほぼ毎日登校している	880名
休みがちになっている	34名
ほとんど登校していない	40名
合計	954名

■ ほぼ毎日登校している ■ 休みがちになっている ■ ほとんど登校していない

回答者の登校状況

児童生徒



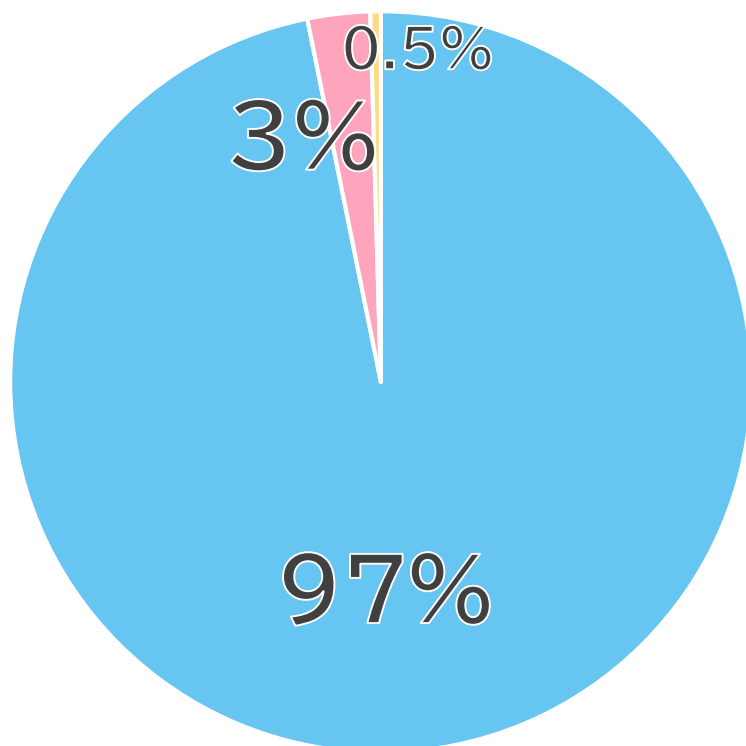
ほぼ毎日登校している	928名
休みがちになっている	26名
ほとんど登校していない	8名
合計	962名

- ほぼ毎日登校している
- 休みがちになっている
- ほとんど登校していない

学校での様子

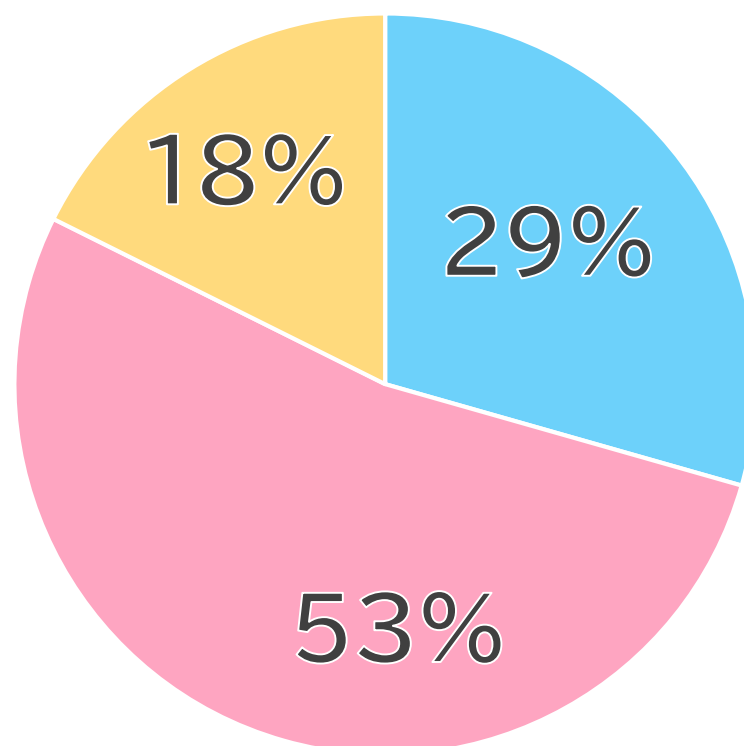
Q お子様の学校での様子で最も近いものを1つ選んでください

■ 保護者



- だいたい楽しく過ごせている
- 教室にいるのがつらい
- 教室に入れていない

■ 保護者(休みがち)

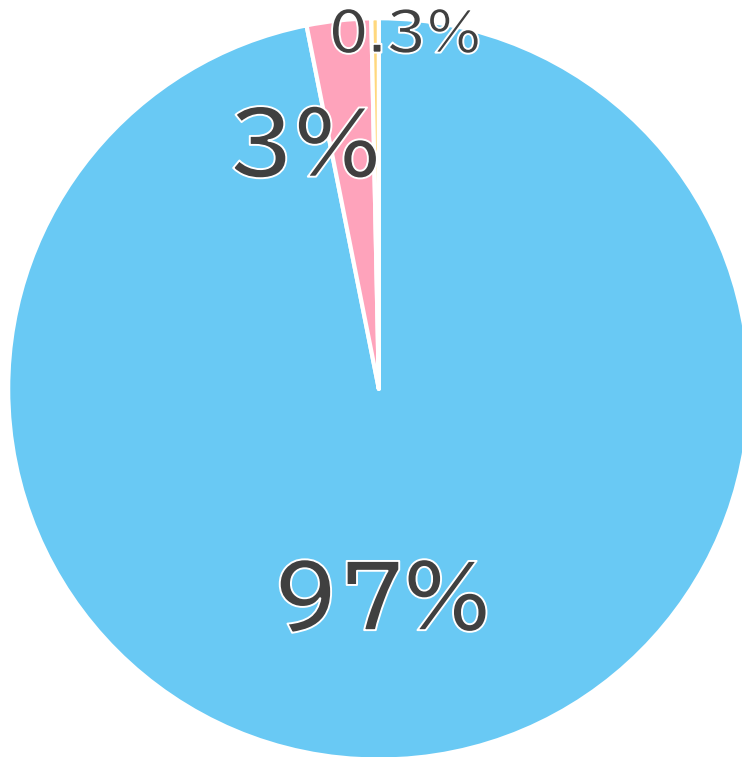


- だいたい楽しく過ごせている
- 教室にいるのがつらい
- 教室に入れていない

学校での様子

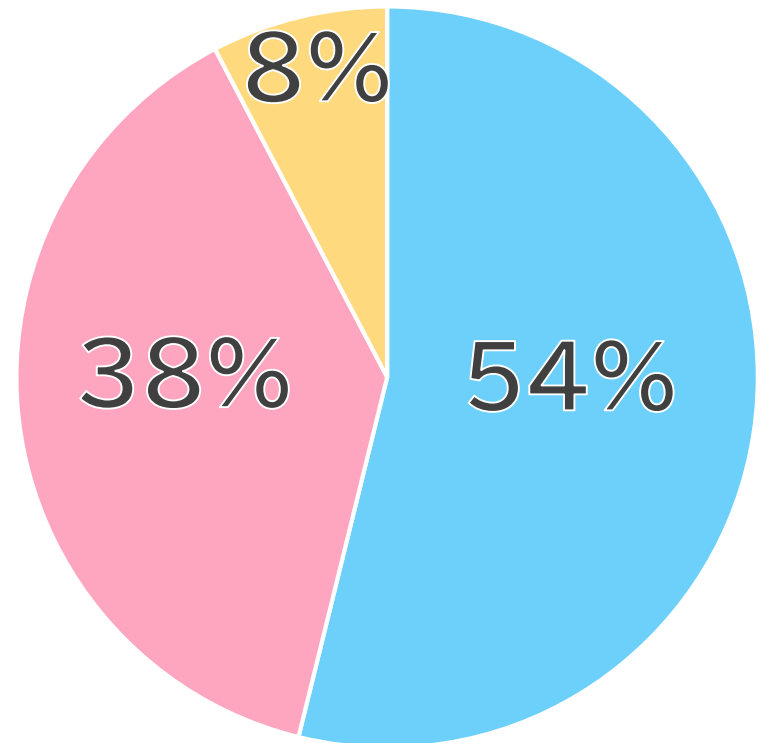
Q 学校での様子で最も近いものを1つ選んでください

児童生徒



- だいたい楽しく過ごせている
- 教室にいるのがつらい
- 教室に入れていない

児童生徒(休みがち)

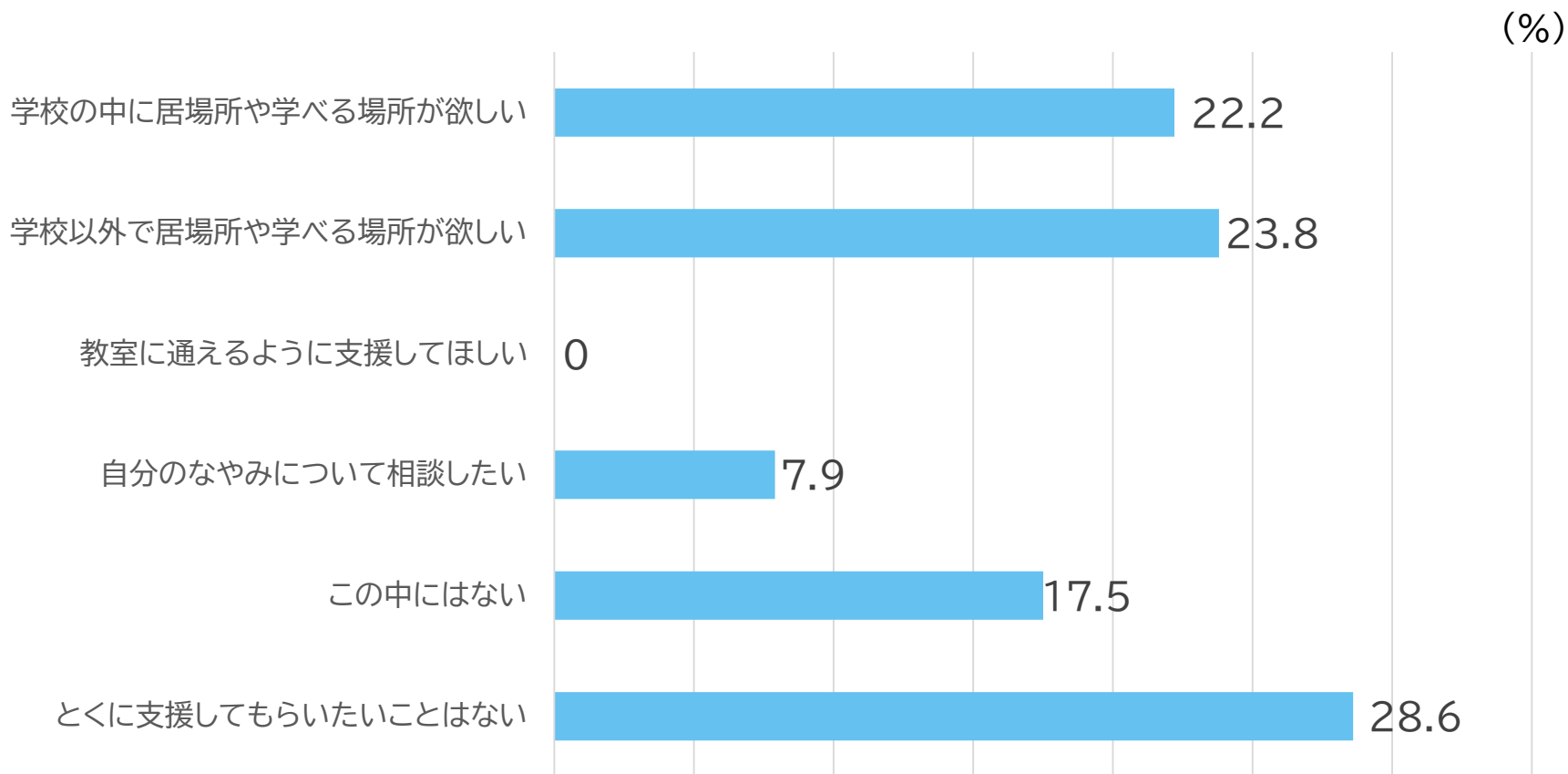


- だいたい楽しく過ごせている
- 教室にいるのがつらい
- 教室に入れていない

いま支援してもらいたいこと

Q いま支援してほしいことは何ですか。次の中からいちばん近いものを選んでください。

児童生徒(ほぼ毎日登校&だいたい楽しく過ごせている**以外**が回答)



いろいろな学びの場づくり アンケート

～教室に入りづらい子どもたちへの支援の充実に向けて～

鎌倉市教育委員会
多様な学びの場づくり担当



3 相談について

相談について

Summary

保護者も子どもも約5%が「相談したいが相談できる人がいない」と感じている

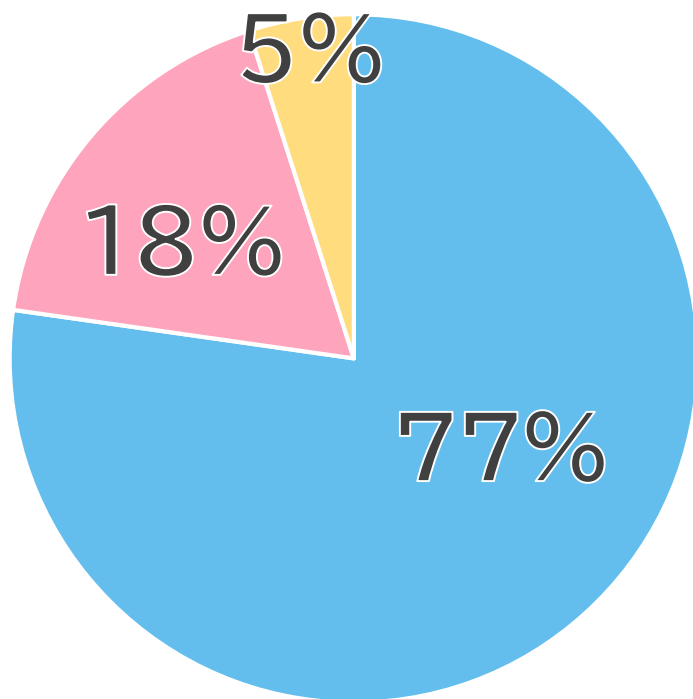
保護者の77%、児童生徒の56%が「相談できる人がいる」と回答している。また、保護者の18%、児童生徒の38%が「特に悩みはない（相談する必要がない）」と回答している。多くの保護者・児童生徒が相談できる環境にあると言えるが、保護者・児童生徒ともに約5%が「相談したいが相談できる人がいない」と回答しており、どのようにして適切な相談窓口につなげていくかが課題である。

「相談できる人がいない理由」としては、保護者は「誰に相談していいかわからない」が最も多く、児童生徒は「相談しても意味がない」が最も多い。

悩みを相談できる人はいますか

保護者

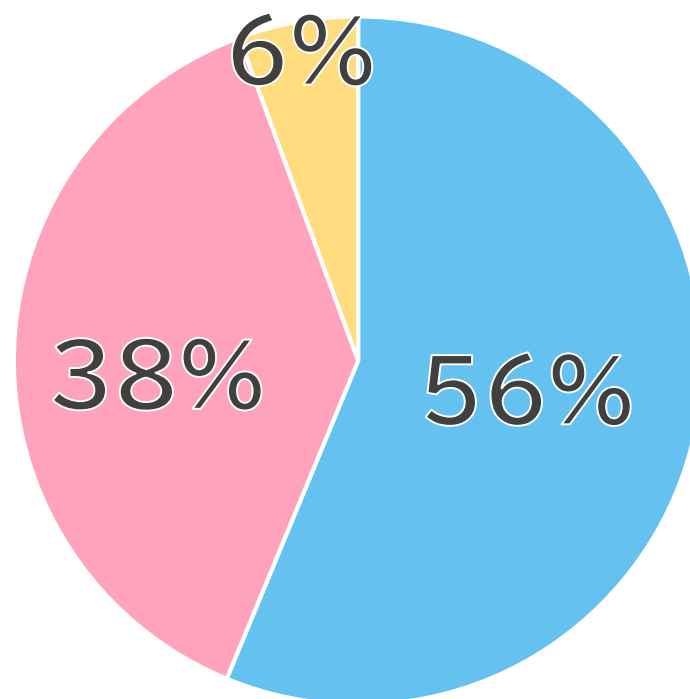
Q お子様に関して悩みを相談できる人はいますか



- いる
- 特に悩みはない(相談する必要がない)
- 相談したいが、相談できる人がいない

児童生徒

Q 自分の悩みを相談できる人はいますか



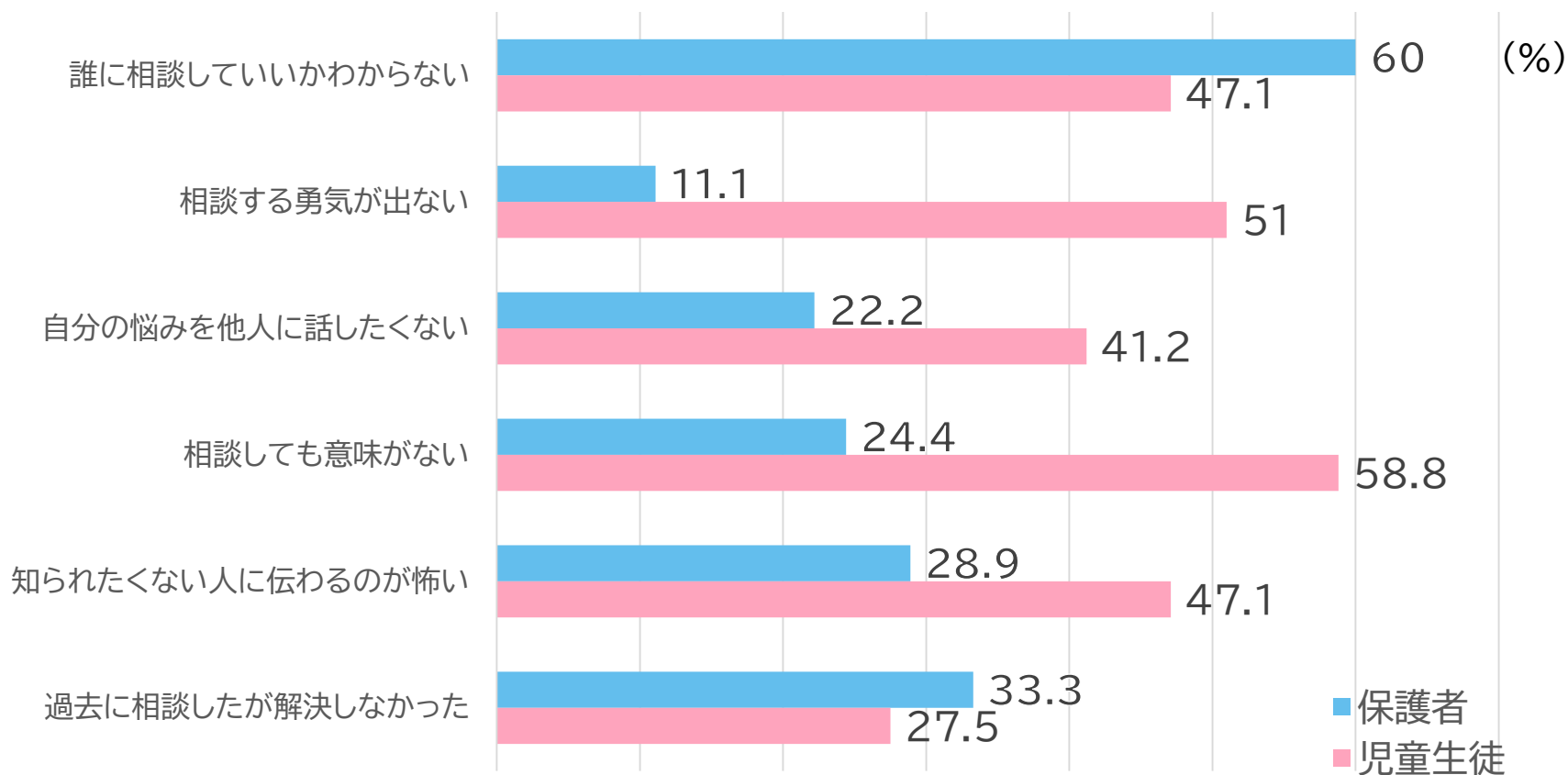
- いる
- 特に悩みはない(相談する必要がない)
- 相談したいが、相談できる人がいない

相談できない理由

「相談できる人がいない」と答えた方

Q 相談したいことがあっても相談できていないのはどうしてですか

*複数回答可・自由記述あり



相談できない理由

「相談できる人がいない」と答えた方

Q 相談したいことがあっても相談できていないのはどうしてですか

その他の回答例(自由記述)

【保護者】

- 行政の相談電話を利用しています
- 身近に友達がいらない
- 本当に解決してくれる気がしない(実績を聞いたことがない)
- 相談場所まで行けない

【児童生徒】

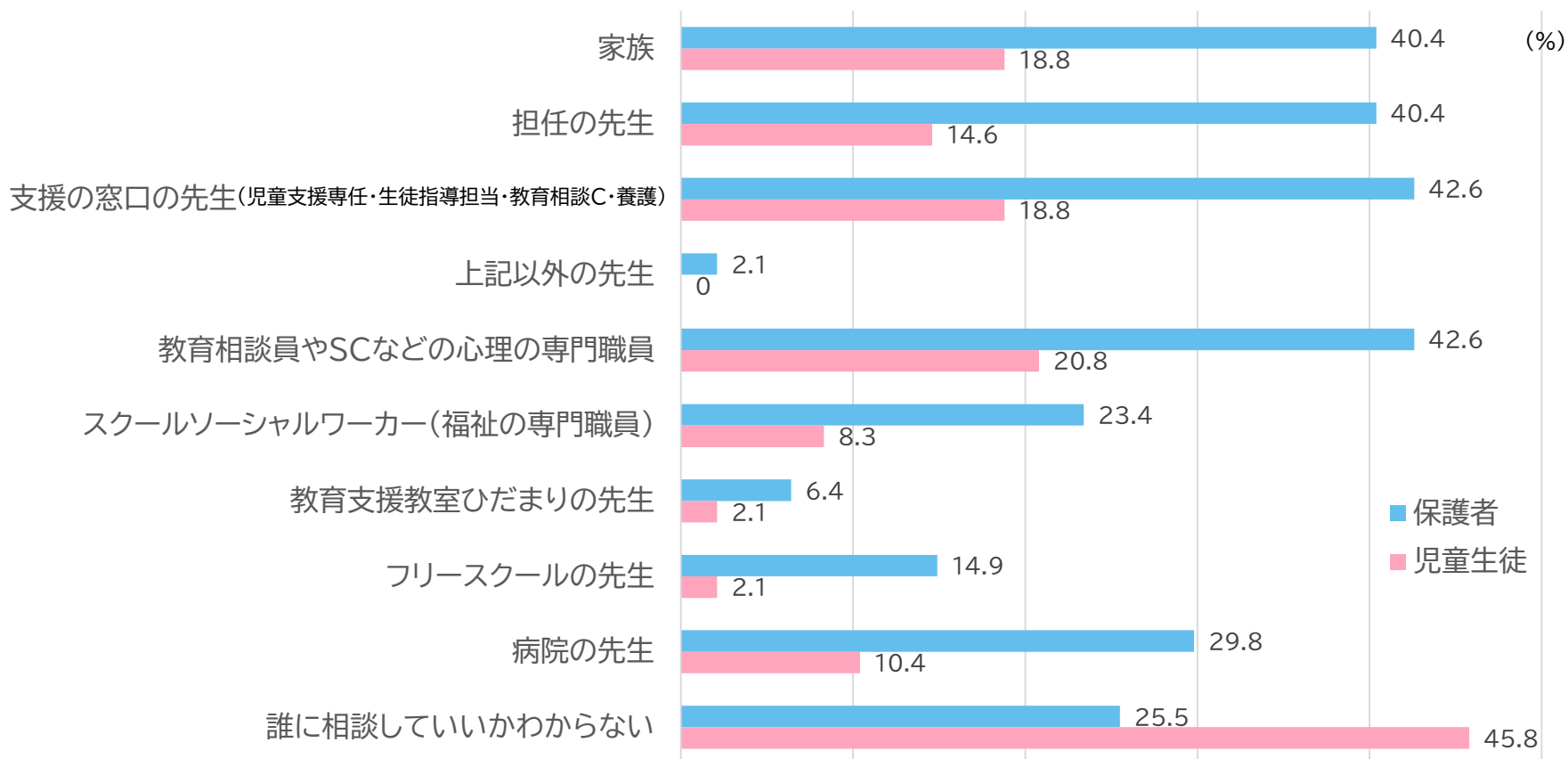
- 怖い
- どうせ解決してくれないから

相談したい相手

相談できる人がいないと答えた方

Q 鎌倉市では、(お子様に関する)悩みなどについて、次のような方と相談されている例が見られます。あなたが相談するとしたら、誰としたいですか。

*複数回答可・自由記述あり



相談したい相手

相談できる人がいないと答えた方

Q 鎌倉市では、(お子様に関する)悩みなどについて、次のような方と相談されている例が見られます。あなたが相談するとしたら、誰としたいですか。

その他の回答例(自由記述)

【保護者】

- 24時間子どもSOSダイヤル
- 同じ悩みを持つ親

【児童生徒】

- 友だち
- とても仲の良い友達
- 相談したいが人に話したくない
- 誰にも相談したくない

いろいろな学びの場づくり アンケート

～教室に入りづらい子どもたちへの支援の充実に向けて～

鎌倉市教育委員会
多様な学びの場づくり担当



4 安心して学習できる場所について



安心して学習できる場所について

Summary

児童生徒の約9割が「自分の家」を「安心して学習できる場所」として選んでおり、「学校の自分のクラス」を選んだ割合は約6割にとどまっている

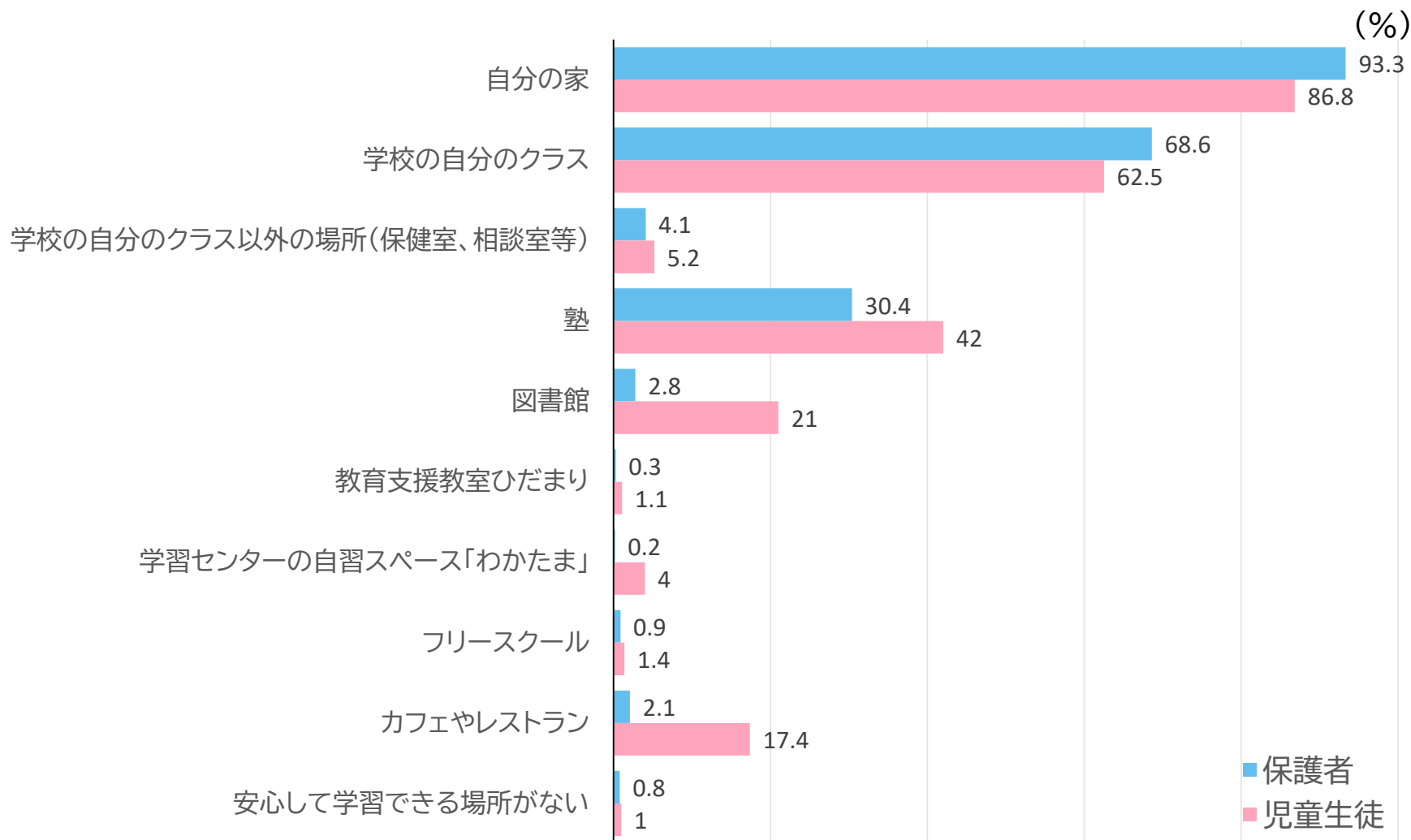
「安心して学習できる場所」は、保護者・児童生徒ともに、「自分の家」が最も多く約9割にのぼる。ついで「学校の自分のクラス」「塾」となっている。

「学校の自分のクラス」を選んだ児童生徒は約6割にとどまっており、ここをいかに改善していくかが課題である。

安心して学習できる場所は

Q 安心して学習できている場所はどこですか

*複数回答可・自由記述あり



安心して学習できる場所は

Q 安心して学習できている場所はどこですか

その他の回答例(自由記述)

【保護者】

- わからない
- 学童・子どもの家
- 放課後デイサービス
- ことばの教室
- マナビノキ
- 友人宅
- アフタースクール
- スタディサポートかまくら
- 公園
- 祖父母宅
- 地域のスポーツクラブ

【児童生徒】

- 友だちの家
- 学童
- おじいちゃん・おばあちゃんの家
- 自分の部屋
- アフタースクール
- 星の子教室
- 放課後デイサービス
- 鎌倉てらこや
- お姉ちゃんだけがいるときの家
- つどいの教室
- 1人の空間
- 神社の休憩所
- 保健室
- 音楽室

いろいろな学びの場づくり アンケート

～教室に入りづらい子どもたちへの支援の充実に向けて～

鎌倉市教育委員会
多様な学びの場づくり担当



5 「教育支援教室ひだまり」について

教育支援教室「ひだまり」について

Summary

「休みがち」または「ほぼ欠席」の児童生徒とその保護者は、「ひだまり」の利用について高い関心を抱いている

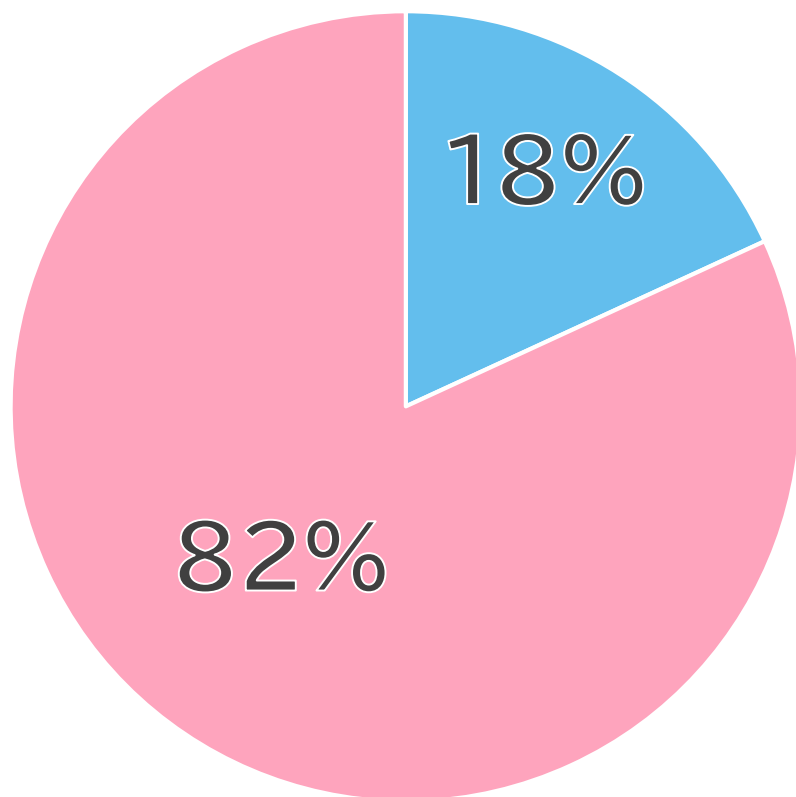
「ひだまり」を「以前から知っている」割合は保護者は18%、児童生徒は10%であった。対象者を「休みがち」または「ほぼ欠席」に絞ると「以前から知っている」割合は保護者69%、児童生徒26%と上昇するが、それでも必要とする方へ十分に周知されているとは言えない状況である。

「ひだまりを利用したいか」の質問に対して、「休みがち」または「ほぼ欠席」のうち「利用してみたい」「わからないが詳しい話を聞いてみたい」と回答した割合は保護者6割、児童生徒4割となった。

教育支援教室ひだまりの認知度

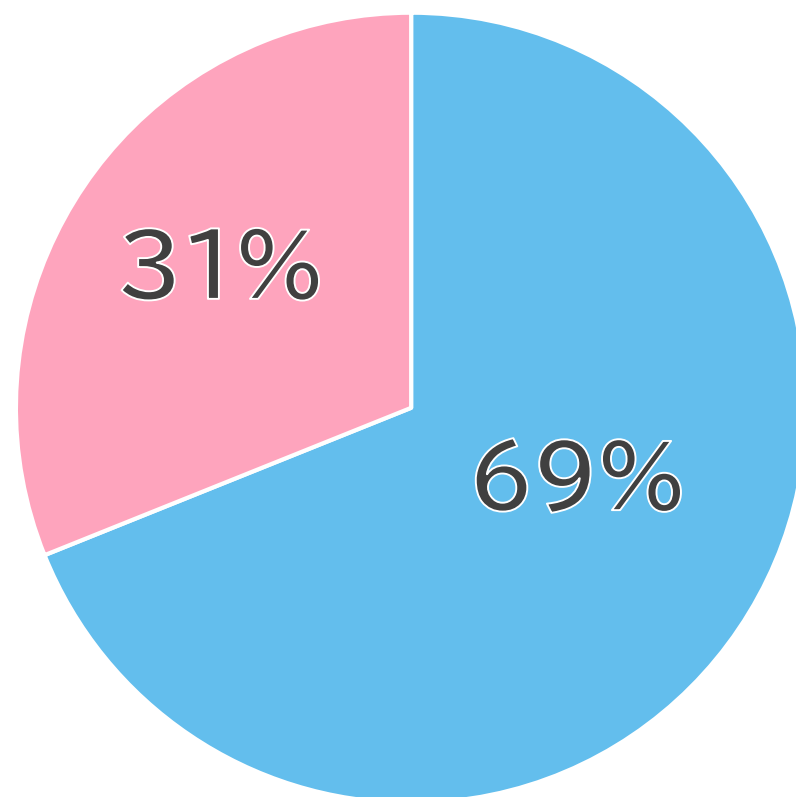
Q 教育支援教室ひだまりがあることを知っていますか

■ 保護者(全体)



■ 以前から知っている ■ 知らなかった

■ 保護者(休みがち & ほぼ欠席)

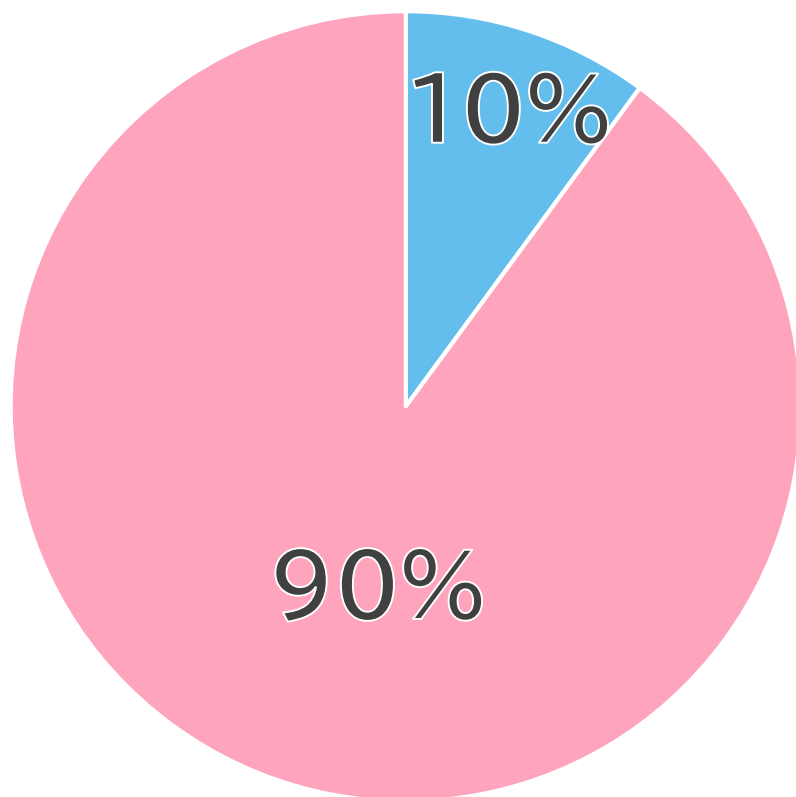


■ 以前から知っている ■ 知らなかった

教育支援教室ひだまりの認知度

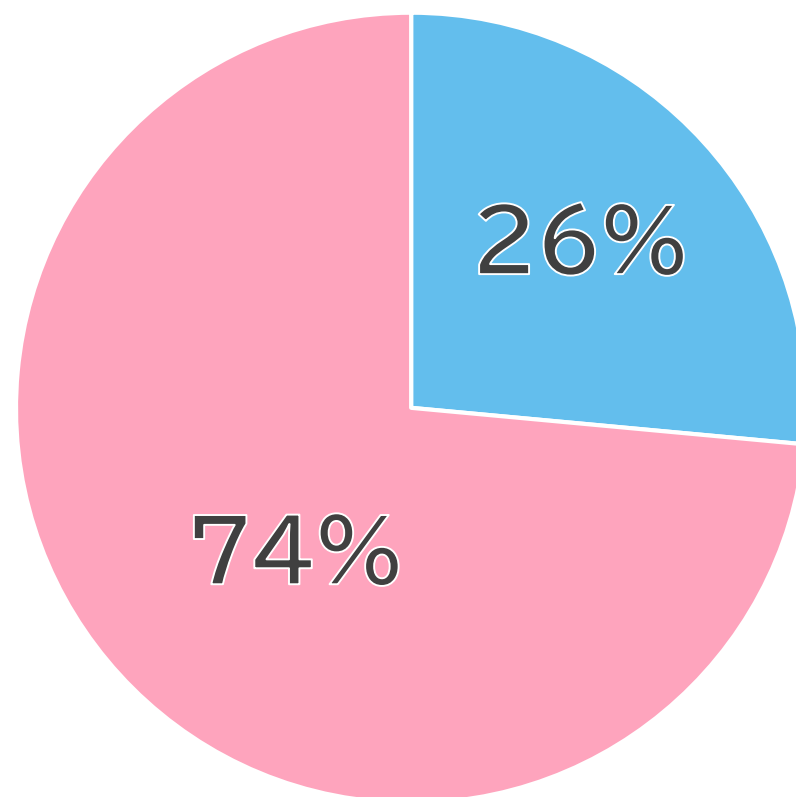
Q 教育支援教室ひだまりがあることを知っていますか

児童生徒(全体)



■ 以前から知っている ■ 知らなかった

児童生徒(休みがち+ほぼ欠席)



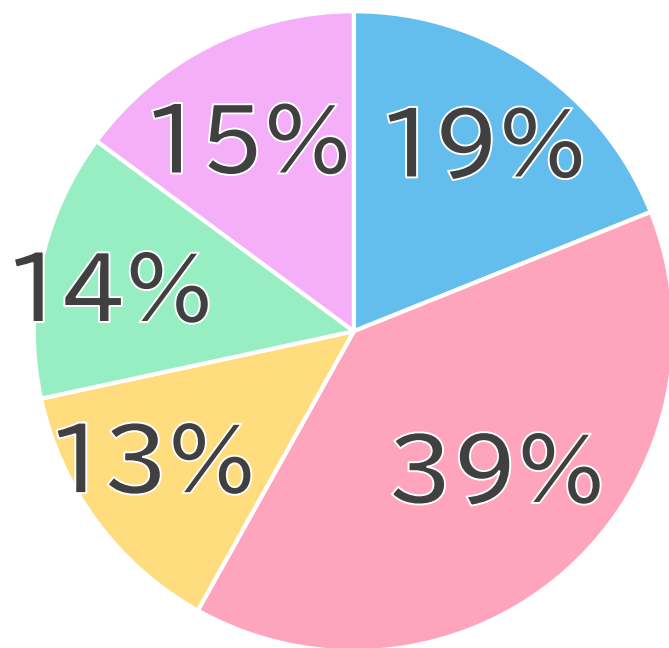
■ 以前から知っている ■ 知らなかった

教育支援教室ひだまりを利用したいか

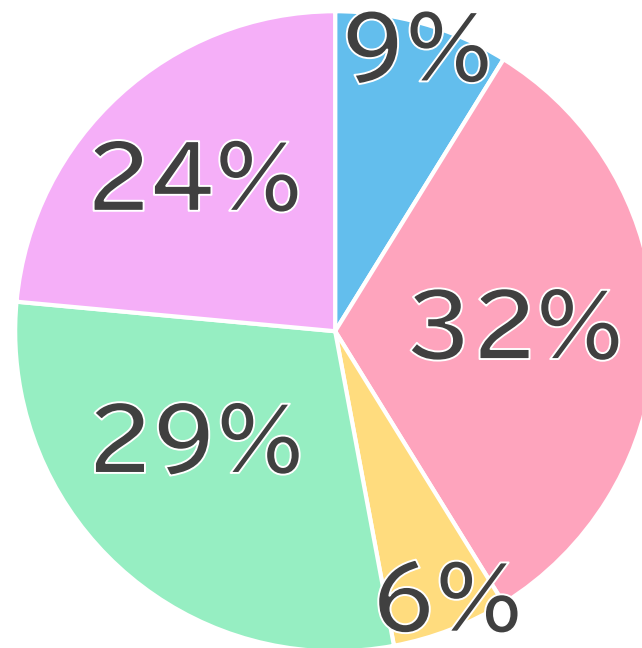
Q 教育支援教室ひだまりを利用したいと思いますか

■ 保護者(休みがち&ほぼ欠席)

■ 児童生徒(休みがち&ほぼ欠席)



- 利用させてみたい
- わからないが詳しい話を聞いてみたい
- 利用させたことがある(利用させている)
- 学校に通えているので利用させる必要がない
- 利用させたくない



- 利用してみたい
- わからないが詳しい話を聞いてみたい
- 利用したことがある(利用している)
- 学校に通えているので利用する必要がない
- 利用したくない

教育支援教室ひだまりを利用したくない理由

Q ひだまりを利用したくない理由は何ですか

自由記述回答例

【保護者】

- できるだけ学校に行って欲しいと思うから
- 近所ではないため気軽に通えないため
- 子供が通いたがらないと思うから
- 施設が古く、ビルに囲まれた日当たりの悪い場所で、子どもの居場所としてあまり好ましいと思えない。
- 親の送迎が必要なため、仕事との両立が難しい。

【児童生徒】

- 安心して学習できる場所が既にあるから
- 家から出たくないから
- 学校で学習できているから
- 学校の人に入っていくところとかを見られたら恥ずかしい
- 学校の方が友達がいるから
- 少人数より大勢で勉強したいから

いろいろな学びの場づくり アンケート

～教室に入りづらい子どもたちへの支援の充実に向けて～

鎌倉市教育委員会
多様な学びの場づくり担当



6 かまくらULTLAプログラムについて

かまくらULTLAプログラムの魅力・有効性をいかに発信していくかが今後の課題

「かまくらULTLAプログラム」を「以前から知っている」割合は保護者は27%、児童生徒は4%であった。対象者を「休みがち」または「ほぼ欠席」に絞ると「以前から知っている」割合は保護者65%、児童生徒15%となっている。

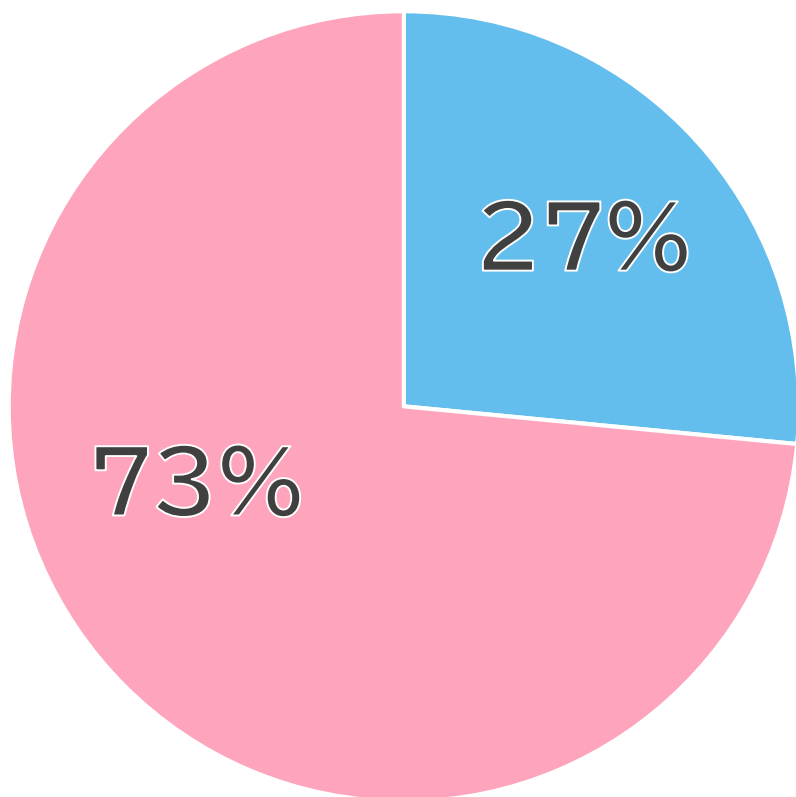
「かまくらULTLAプログラムに参加したいか」の質問に対して、「休みがち」または「ほぼ欠席」のうち「参加してみたい」「わからないが詳しい話を聞いてみたい」「参加したことがある」と回答した割合は保護者約8割、児童生徒約5割となり、参加に前向きな様子が伺える。

ただ、参加したくない理由を見ると、「よくわからない」ため参加へのハードルが上がっている様子が伺え、今後の課題である。

かまくらULTLAプログラムの認知度

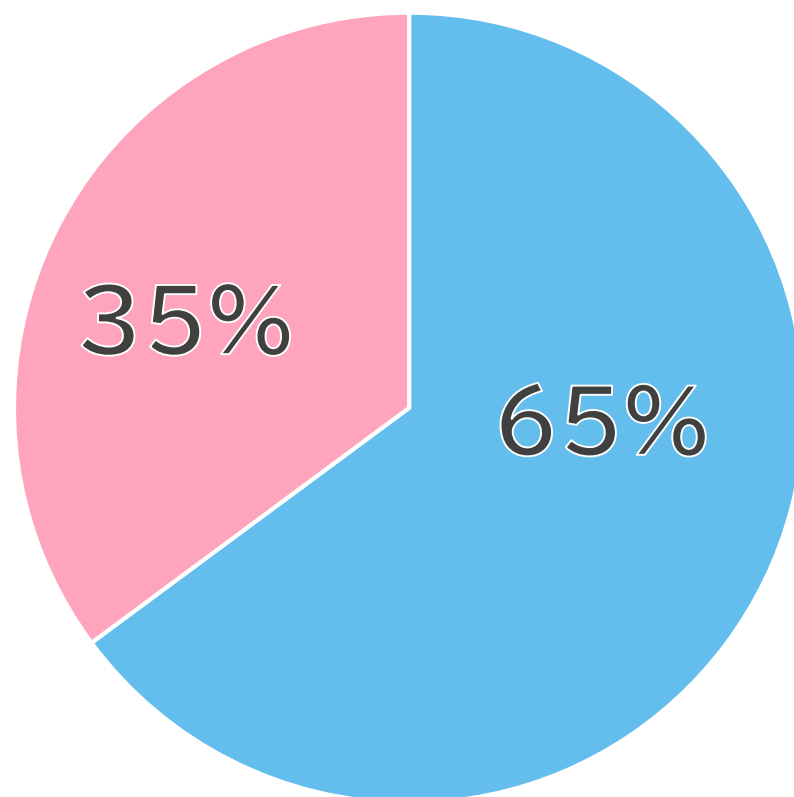
Q かまくらULTLAプログラムを実施していることを知っていますか

■ 保護者(全体)



■ 以前から知っている ■ 知らなかった

■ 保護者(休みがち & ほぼ欠席)

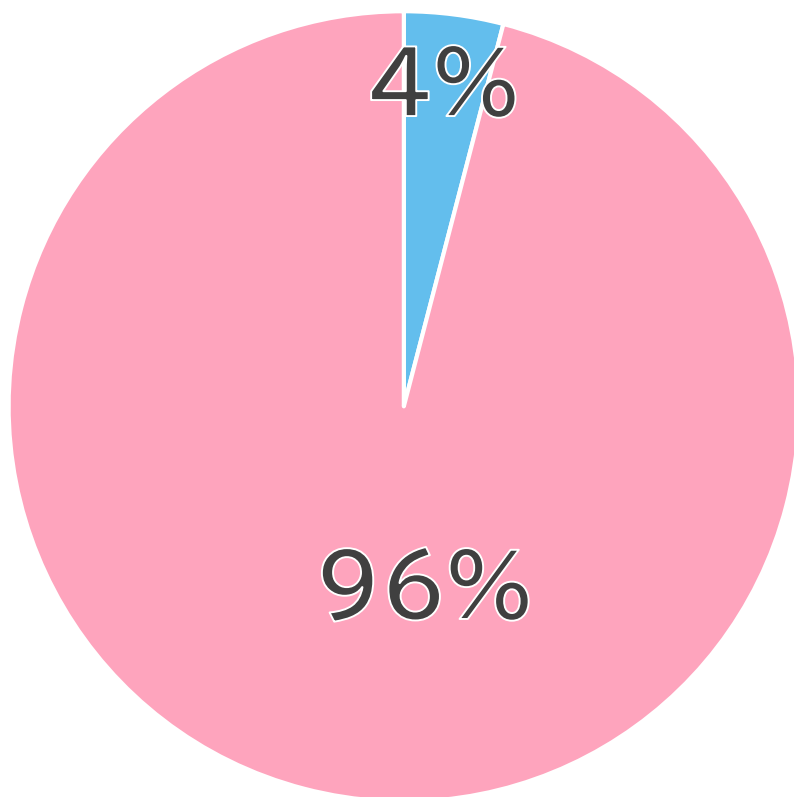


■ 以前から知っている ■ 知らなかった

かまくらULTLAプログラムの認知度

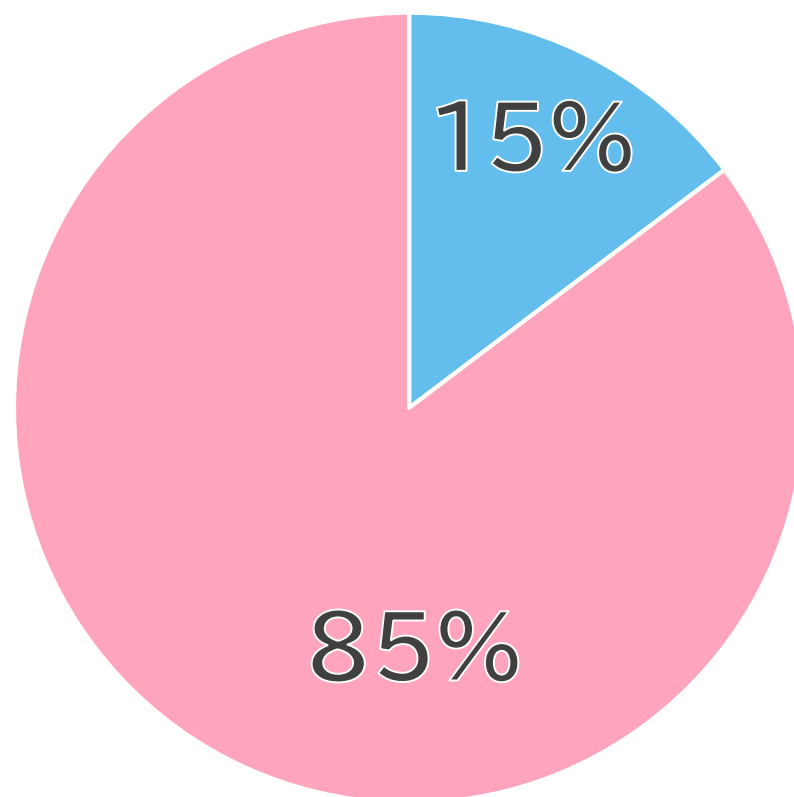
Q かまくらULTLAプログラムを実施していることを知っていますか

児童生徒(全体)



■ 以前から知っている ■ 知らなかった

児童生徒(休みがち+ほぼ欠席)

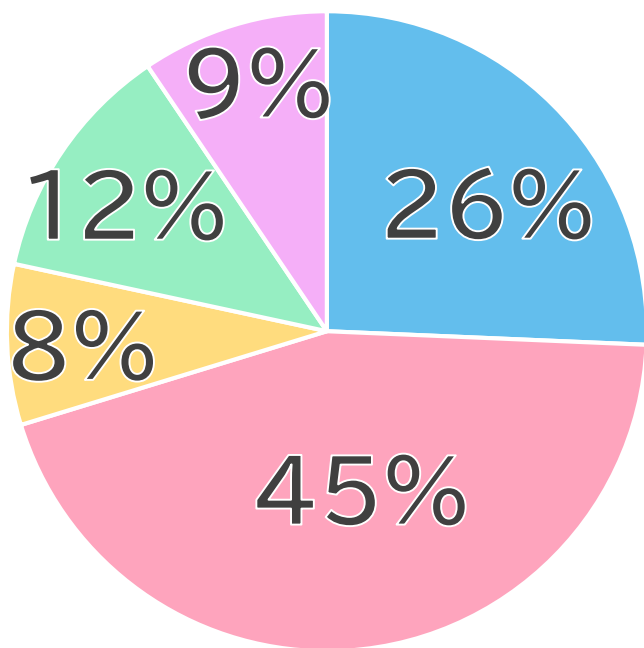


■ 以前から知っている ■ 知らなかった

かまくらULTLAプログラムに参加したいか

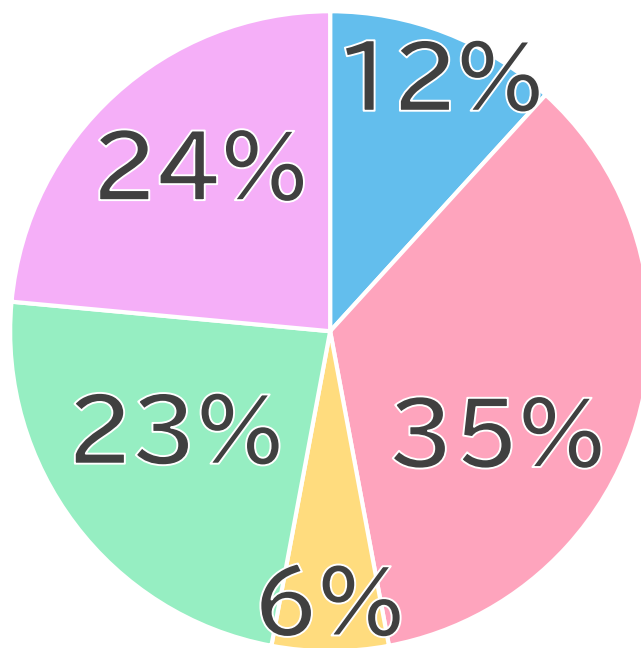
Q かまくらULTLAプログラムに参加してみたいですか

保護者(休みがち&ほぼ欠席)



- 参加させたい
- わからないが詳しく話を聞いてみたい
- 参加させたことがある
- 参加させる必要がない
- 参加させたくない

児童生徒(休みがち&ほぼ欠席)



- 参加してみたい
- わからないが詳しく話を聞いてみたい
- 参加したことがある
- 参加する必要がない
- 参加したくない

かまくらULTLAプログラムに参加したくない理由

Q かまくらULTLAプログラムに参加したくない理由は何ですか

自由記述回答例

【保護者】

- 自然の中で遊ぶのを好まないのと開催日の日程が通院になる可能性があるため
- 人見知りなのでうまく日程を過ごせるか心配
- 特に必要を感じていないから。
- 発達障害があり、集団で行動するのが苦手なので。
- 本人の興味に合わない
- 不登校の子には色々な理由があつての事と思いますが、特に知らない人や同世代の人に会うことに抵抗がある子供(我が子)にはハードルが高いと感じます。

【児童生徒】

- ママとはなれたくない
- 何かわからないから
- 学校が楽しいから
- 現状に満足しているから
- 知らない人が苦手

いろいろな学びの場づくり アンケート

～教室に入りづらい子どもたちへの支援の充実に向けて～

鎌倉市教育委員会
多様な学びの場づくり担当



7 ロートこどもみらい財団について

ロートこどもみらい財団について

Summary

ロートこどもみらい財団の認知度は非常に低いが、保護者からの関心は高く、今後いかに周知していくかが課題

ロートこどもみらい財団のオンラインプログラムの認知度は、保護者6%・児童生徒4%と非常に低い結果となった。

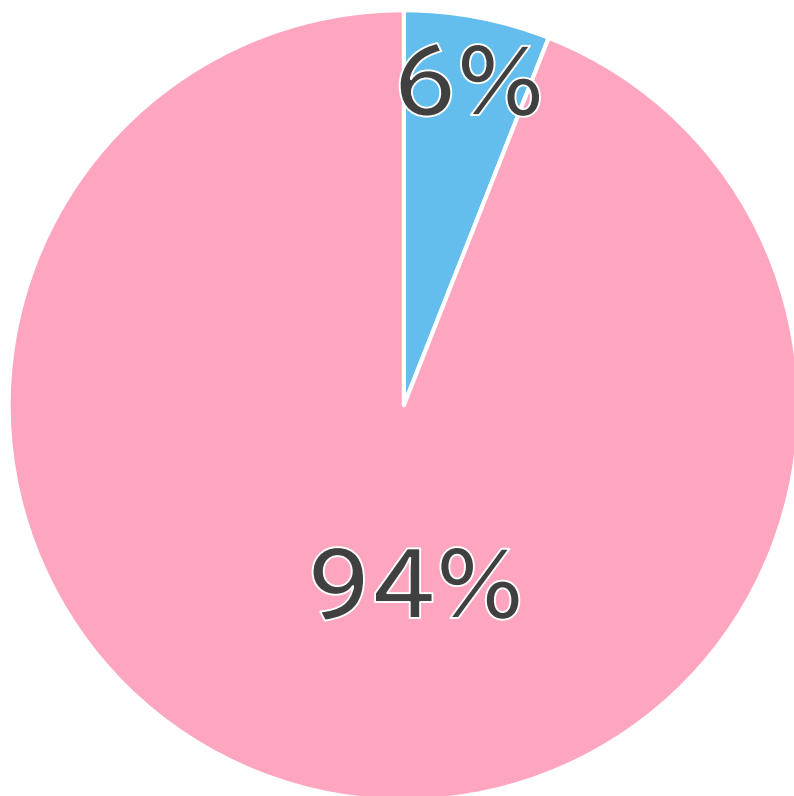
認知度は低いながらも、「プログラムに参加したいか」の質問に対し「参加したい」「詳しい話を聞いてみたい」と回答した割合は保護者全体では63%、児童生徒全体では34%、「休みがち」「ほぼ欠席」の保護者では89%と、児童生徒では47%となり、特に保護者からの高い関心が伺える。

教育委員会としても、本事業を「学びの場の一つ」として捉えており、特に引きこもりがち子どもが社会とつながる一つの手段として有効活用していくためにも、周知の方法を検討していきたい。

ロートこどもみらい財団オンラインプログラムの認知度

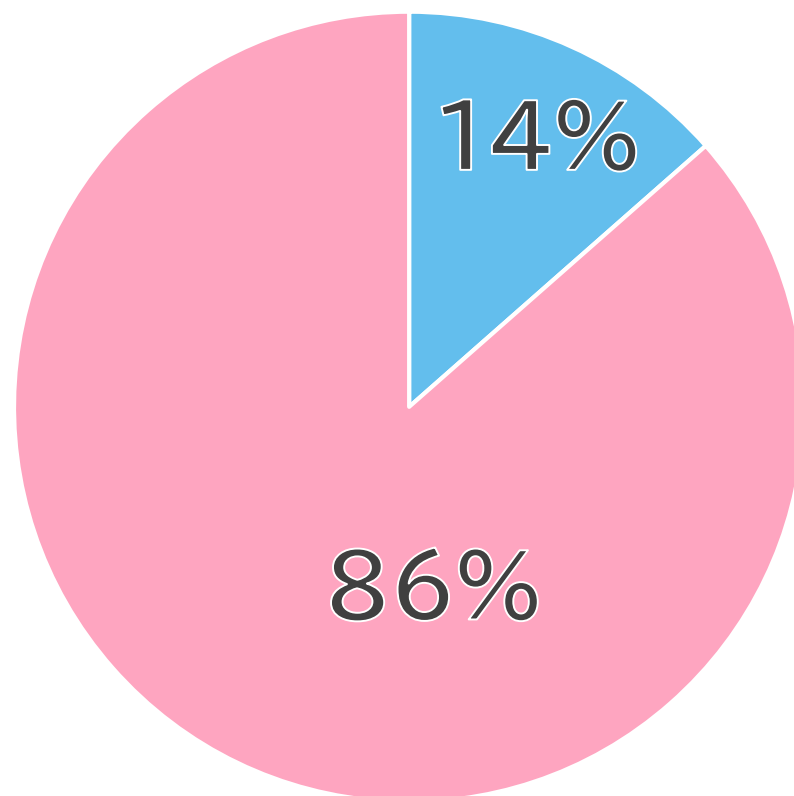
Q ロートこどもみらい財団が、オンラインで学ぶことができるプログラムを提供していることを知っていますか

■ 保護者(全体)



■ 以前から知っている ■ 知らなかった

■ 保護者(休みがち & ほぼ欠席)

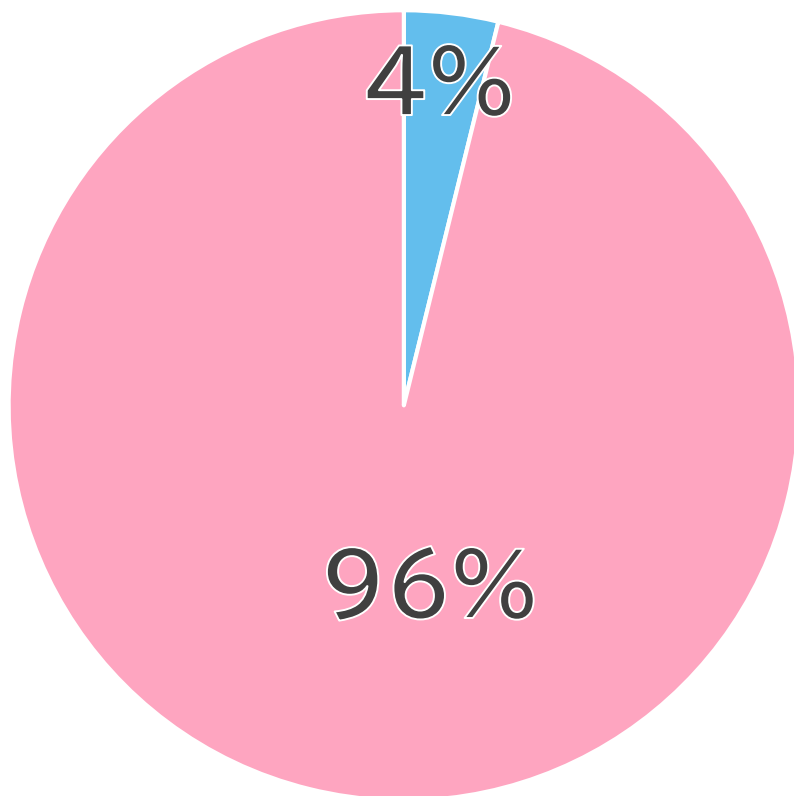


■ 以前から知っている ■ 知らなかった

ロートこどもみらい財団オンラインプログラムの認知度

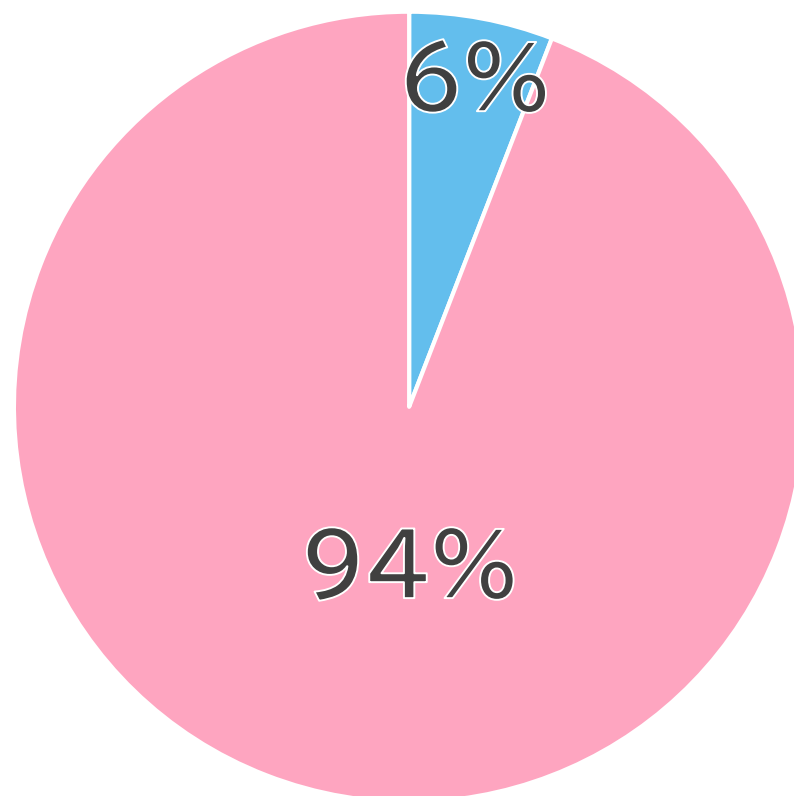
Q ロートこどもみらい財団が、オンラインで学ぶことができるプログラムを提供していることを知っていますか

児童生徒(全体)



■ 以前から知っている ■ 知らなかった

児童生徒(休みがち+ほぼ欠席)

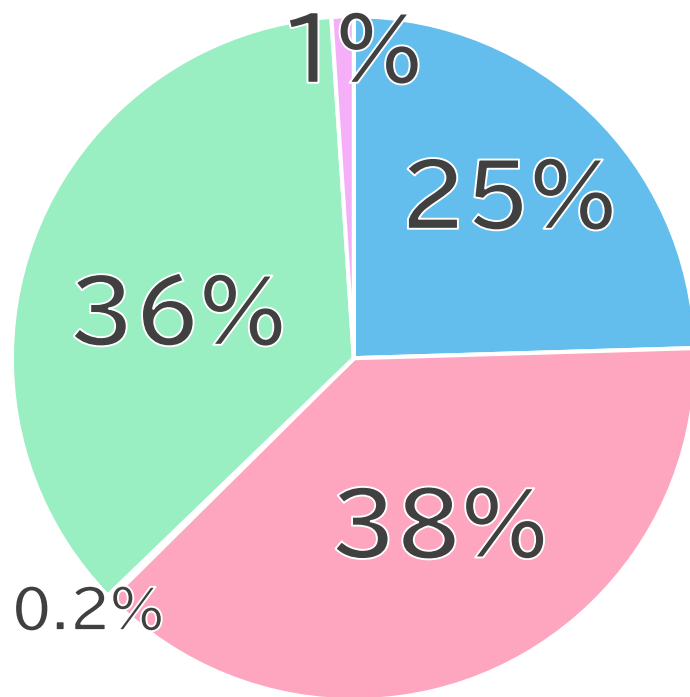


■ 以前から知っている ■ 知らなかった

ロートこどもみらい財団オンラインプログラムに参加したいか

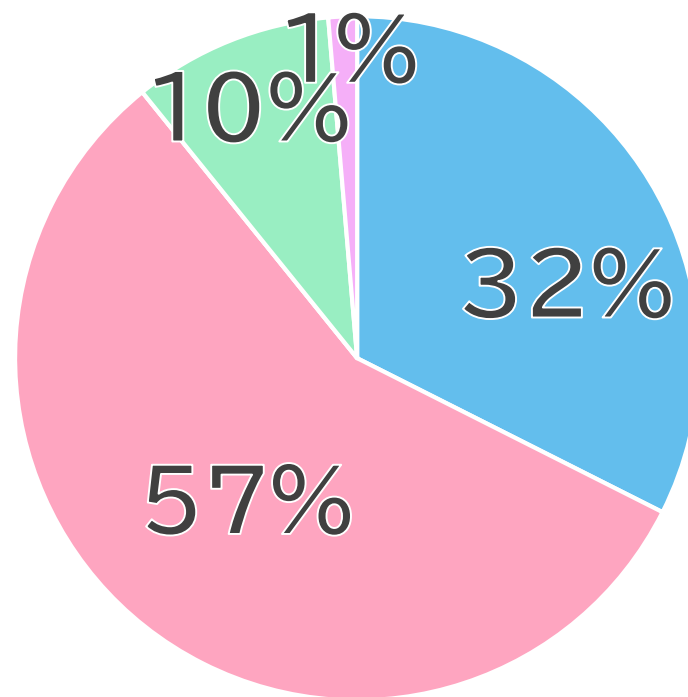
Q ロートこどもみらい財団の提供するプログラムにお子様を参加させてみたいですか

保護者(全体)



- 参加させてみたい
- わからないが詳しい話を聞いてみたい
- 参加させたことがある
- 参加させる必要がない
- 参加させたくない

保護者(休みがち&ほぼ欠席)

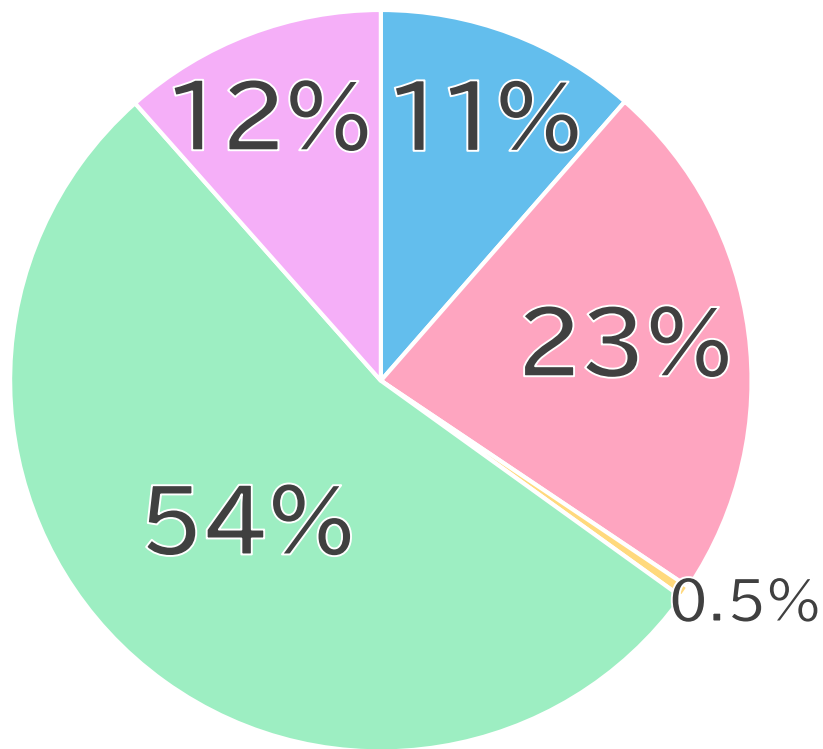


- 参加させてみたい
- わからないが詳しい話を聞いてみたい
- 参加させたことがある
- 参加させる必要がない
- 参加させたくない

ロートこどもみらい財団オンラインプログラムに参加したいか

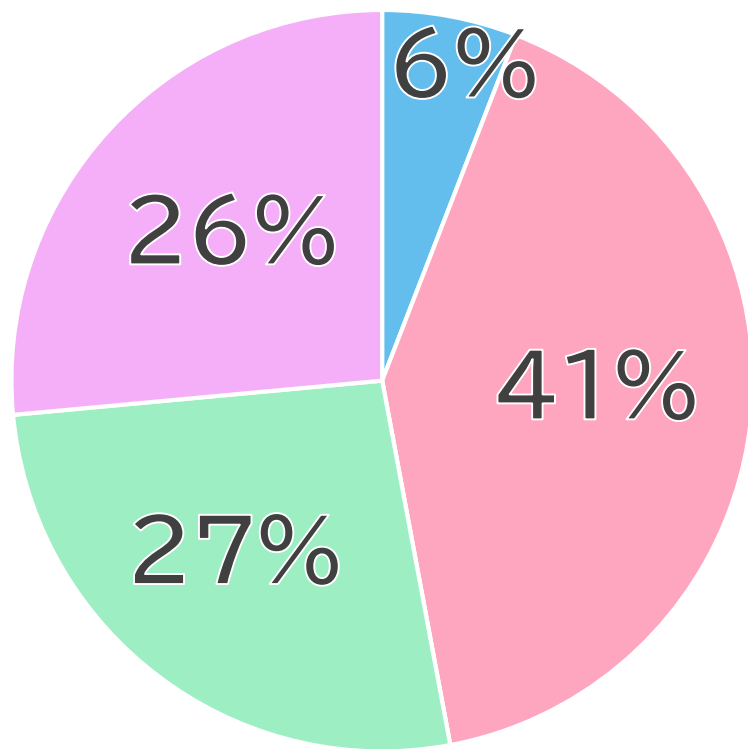
Q ロートこどもみらい財団の提供するプログラムに参加してみたいですか

児童生徒(全体)



- 参加してみたい
- わからないが詳しい話を聞いてみたい
- 参加したことがある
- 参加する必要がある
- 参加したくない

児童生徒(休みがち&ほぼ欠席)



- 参加してみたい
- わからないが詳しい話を聞いてみたい
- 参加したことがある
- 参加する必要がある
- 参加したくない

ロートこどもみらい財団のプログラムに参加したくない理由

Q ロートこどもみらい財団の提供するプログラムに参加させたくない理由は何ですか

自由記述回答例

【保護者】

- オンラインは我が子に不向きなため
- こどもの興味が低そうだから
- プログラム自体は魅力的で参加させたいです。ただ、子どもの時には、体験する、というのが一番大事ではないでしょうか。リアルの体験も重要だと考えて欲しいです。

【児童生徒】

- オンラインが苦手、プログラムが嫌いだから。
- めんどくさいから
- よくわからないから
- 学校が楽しいから
- 今は塾などで忙しいから
- 勇気がないから

いろいろな学びの場づくり アンケート

～教室に入りづらい子どもたちへの支援の充実に向けて～

鎌倉市教育委員会
多様な学びの場づくり担当



8 校内フリースペースについて

校内フリースペースについて

Summary

教室に入りづらい状況にある保護者・児童生徒の「校内フリースペース」へのニーズは非常に高い

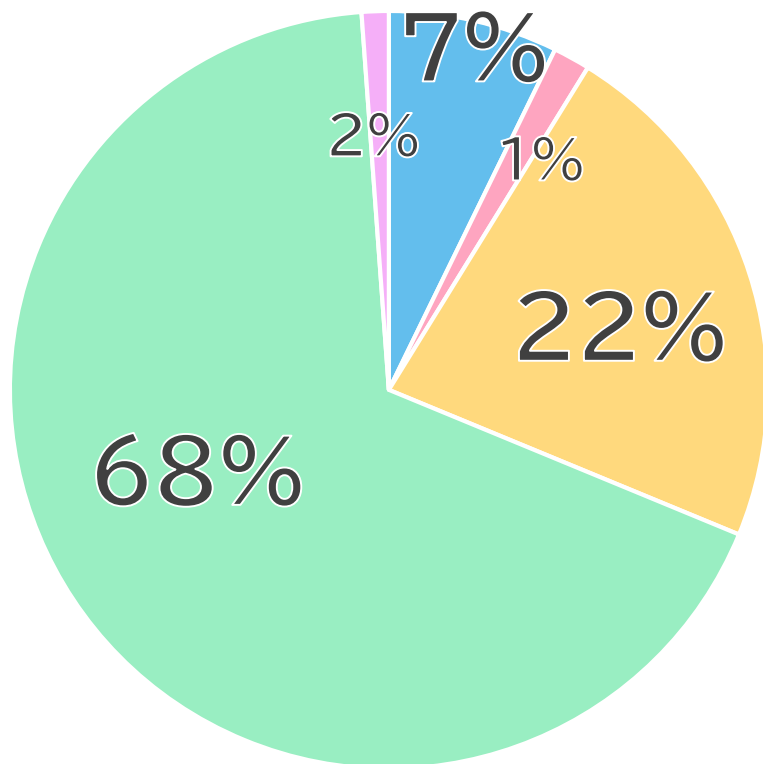
校内フリースペースの利用について、「休みがち」「ほぼ欠席」の保護者・児童生徒のうち「利用したい」「すでに利用している」「詳しい話を聞いてみたい」割合は、保護者88%・児童生徒64%と高く、本事業のニーズが非常に高いことが伺える。

「校内フリースペースに期待したいこと」は、保護者からは「相談できる大人がいること」が最も多く、児童生徒からは「少人数で過ごすことができる」「個別学習のスペースがある」「リラックスできるソファがあるなど教室とは違った雰囲気がある」「落ち着いた空間」が多い。

校内フリースペースを利用したいか

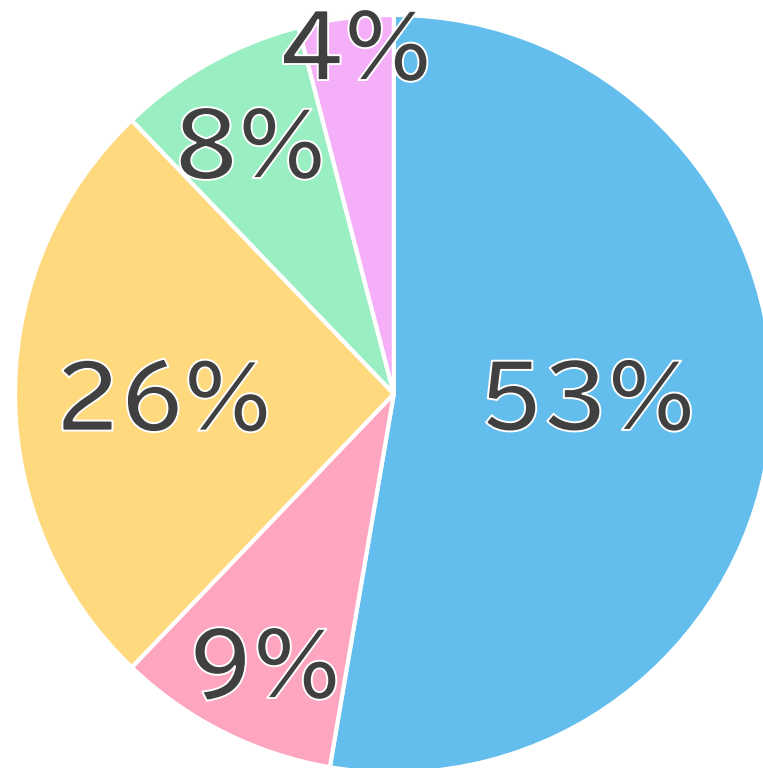
Q 校内フリースペースについて利用させたいと思いますか

保護者(全体)



- 利用させたい *休みがちになっている・自分のクラスに入りづらいため
- もうすでに学校内にそのような居場所があり利用させている(利用させたことがある)
- わからないが詳しい話を聞いてみたい
- 自分の教室等で学んでいるので必要ない
- 利用させたくない

保護者(休みがち&ほぼ欠席)

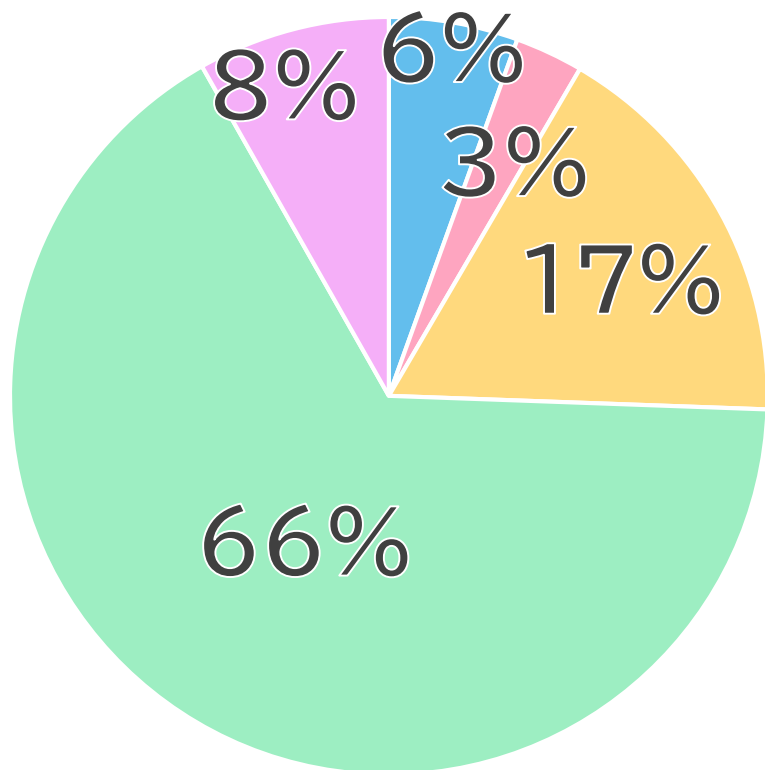


- 利用させたい *休みがちになっている・自分のクラスに入りづらいため
- もうすでに学校内にそのような居場所があり利用させている(利用させたことがある)
- わからないが詳しい話を聞いてみたい
- 自分の教室等で学んでいるので必要ない
- 利用させたくない

校内フリースペースを利用したいか

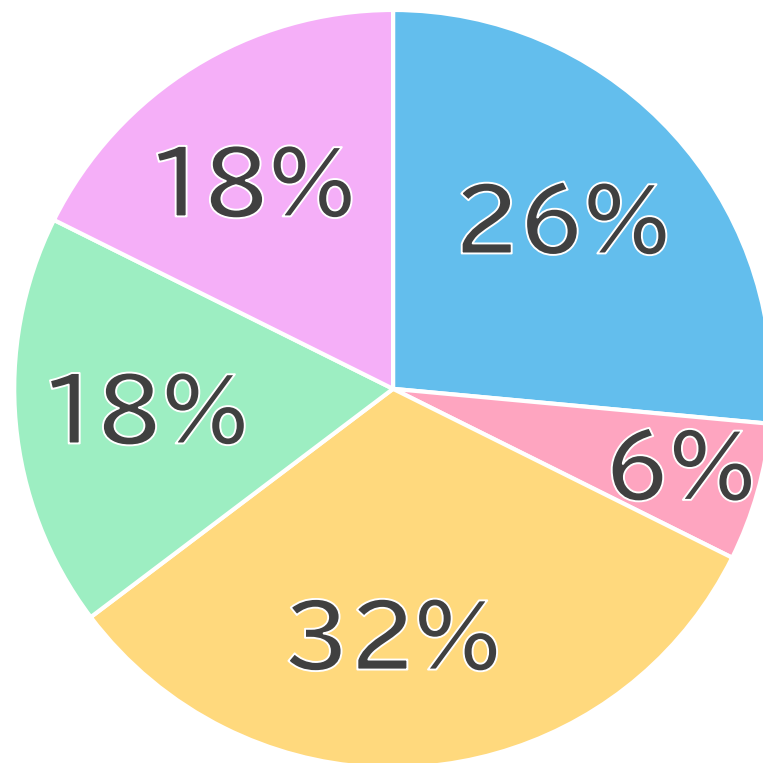
Q 校内フリースペースについて利用したいと思いますか

児童生徒(全体)



- 利用してみたい *休みがちになっている・自分のクラスに入りづらいため
- もうすでに学校内にそのような居場所があり利用している(利用させたことがある)
- わからないが詳しい話を聞いてみたい
- 自分の教室等で学んでいるので必要ない
- 利用したくない

児童生徒(休みがち&ほぼ欠席)



- 利用してみたい *休みがちになっている・自分のクラスに入りづらいため
- もうすでに学校内にそのような居場所があり利用している(利用させたことがある)
- わからないが詳しい話を聞いてみたい
- 自分の教室等で学んでいるので必要ない
- 利用したくない

校内フリースペースを利用したくない理由

Q 校内フリースペースを利用させたくない理由は何ですか

自由記述回答例

【保護者】

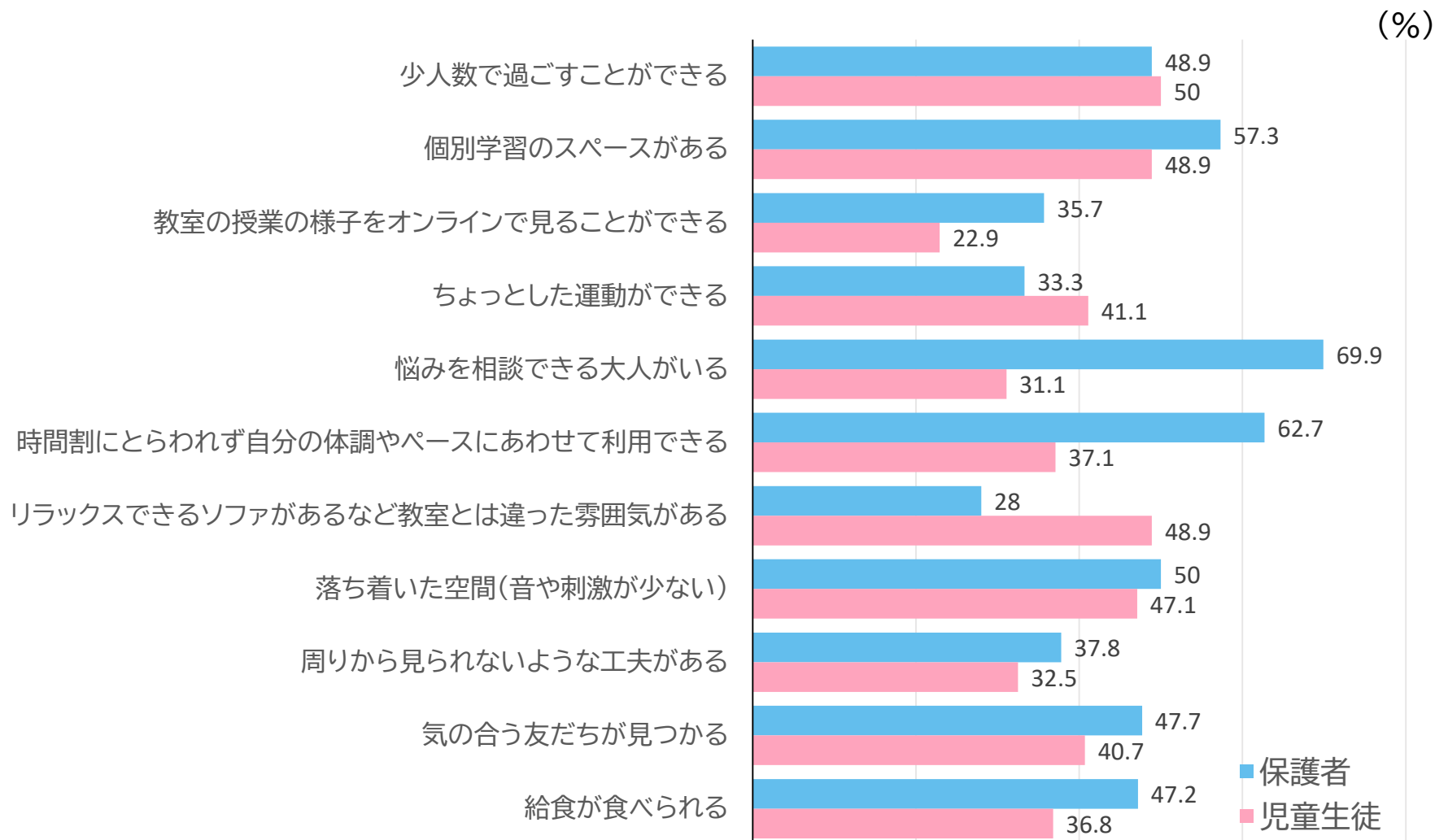
- 教室で普通に学んで欲しい
- 今のところ学校に行きたくないと言わないので
- 学校に行くこと自体がストレスとなっているため

【児童生徒】

- そもそも学校に行きたくないから。
- 変に同情されたり、ハブられたくないから
- 家に居たいから
- 楽しいクラスがあるから。
- 学校自体行きづらい

校内フリースペースについて期待したいこと

Q 校内フリースペースについて期待したいことがあれば選んでください *複数回答可・自由記述あり



校内フリースペースについて期待したいこと

Q 校内フリースペースについて期待したいことがあれば選んでください

その他の回答例(自由記述)

【保護者】

- その子に合わせた(やりたいorつまづいている)課題に取り組めるところ、仕組み、雰囲気
- 教室へ入りづらい子だけではなく、暴れたり大声を出したり立ち回る子も、過ごせる部屋作りになっていたらいいと思う
- 少しずつ教室でも学べる、または近づけるようになったり、気持ちが動くことを目指せる！
- 教室に入りづらい子もそうでない子も落ち着いて過ごせる場所があったらいいなと思う。大人は教師ではなく外部の人が居たらいいのかもしれない。
- 本棚、折り紙、ボードゲームなどもあるとよいのでは。自習させるというよりは、居場所という感じで。
- なるべくいつも同じ大人が対応してくれる
- 不登校対応だけではなく、予防としても誰でもが使える開かれた存在
- 一人になれる場所がある
- 教室に居づらい子誰にでも、いつでも開かれていて、信頼できる大人が常駐していてくれること。
- 子どもの多様性に理解ある教員・大人の関わり

【児童生徒】

- 遊べる、お菓子が食べれる、先生が選べる、なんでもOK
- ゆっくり読書ができる
- 安心して過ごせるような場所
- 気軽に行ける
- 気持ちを落ち着かせるために音楽が聴ける

いろいろな学びの場づくり アンケート

～教室に入りづらい子どもたちへの支援の充実に向けて～

鎌倉市教育委員会
多様な学びの場づくり担当



9 学校に通いづらい生徒のための 「特例校^{*}」について

*文部科学省は8月31日に不登校特例校の名称
を「学びの多様化学校」に変更しました

学校に通いづらい生徒のための「特例校」について

Summary

教室に入りづらい状況にある保護者・児童生徒の「特例校」への関心は高く、「自分のペースで学べる」ことに期待を寄せている

「特例校」について、「休みがち」「ほぼ欠席」の保護者・児童生徒のうち「通ってみたい」「詳しい話を聞いてみたい」割合は、保護者88%、児童生徒50%と高く、関心の高さが伺える。

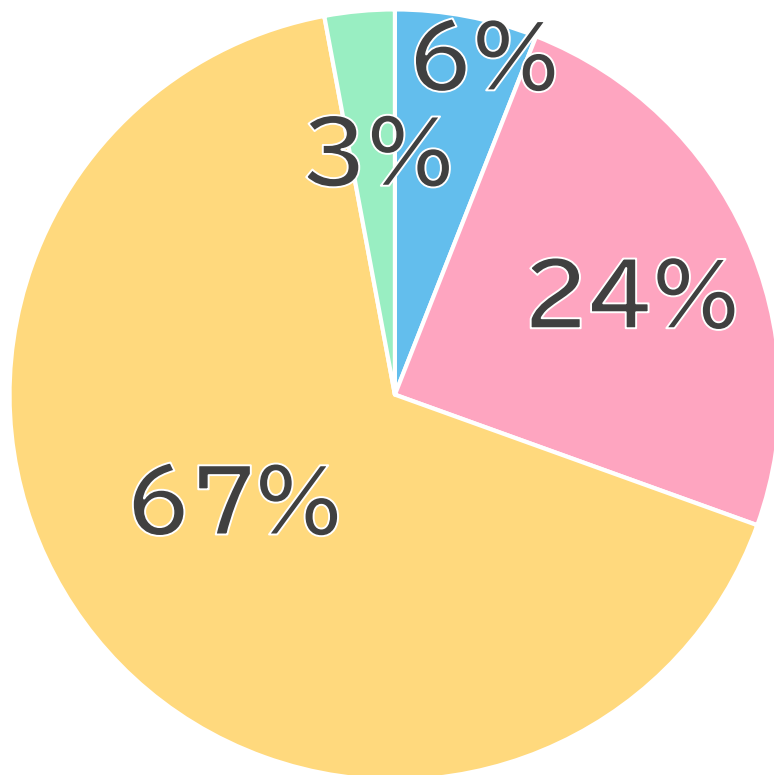
「特例校」において「身に着けたい力や知識」は、保護者は「自分の意見を人に伝えられる力」「コミュニケーション能力」が多く、児童生徒は「漢字や計算などの基礎的学力」が多い。

また、「特例校の学習で期待したいこと」としては、保護者・児童生徒ともに「自分のペースで学べる」が最も高かった。

「特例校」に通いたいかな

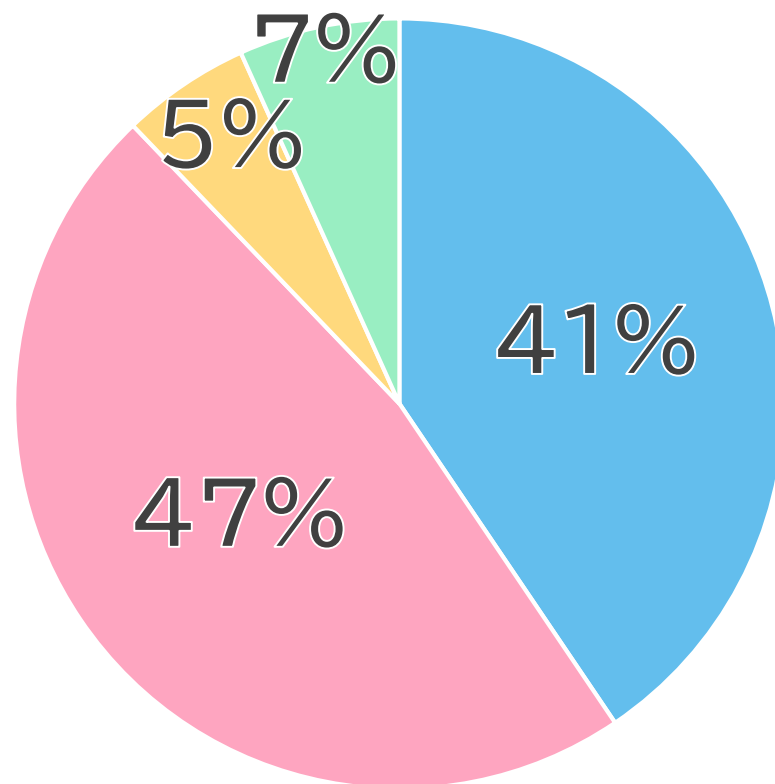
Q 「特例校」に通わせてみたいと思いますか

■ 保護者(全体)



- 通わせてみたい
- わからないが詳しい話を聞いてみたい
- 学校に通えているので、必要がない
- 通わせたくない

■ 保護者(休みがち&ほぼ欠席)

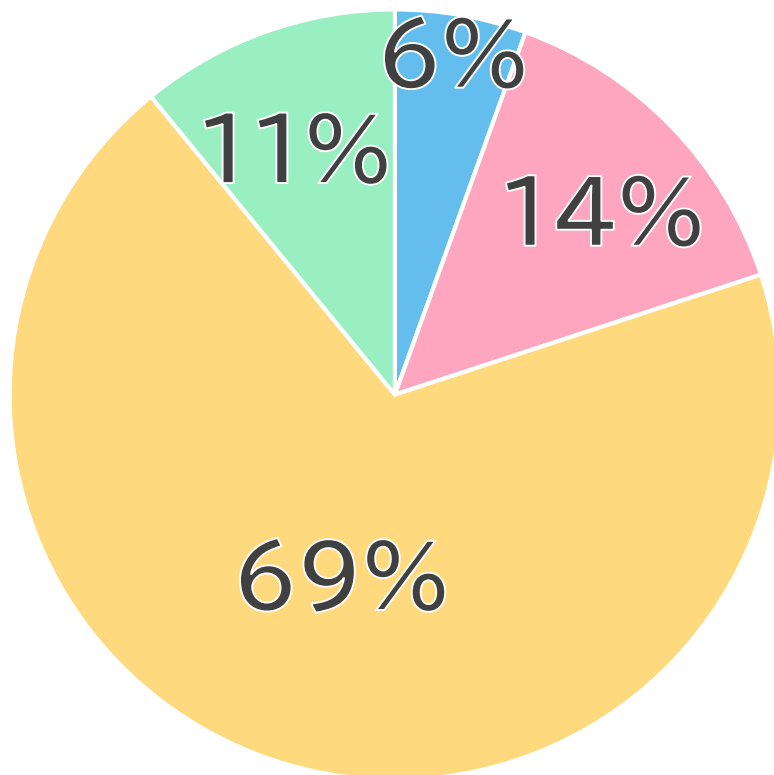


- 通わせてみたい
- わからないが詳しい話を聞いてみたい
- 学校に通えているので、必要がない
- 通わせたくない

「特例校」に通いたいかな

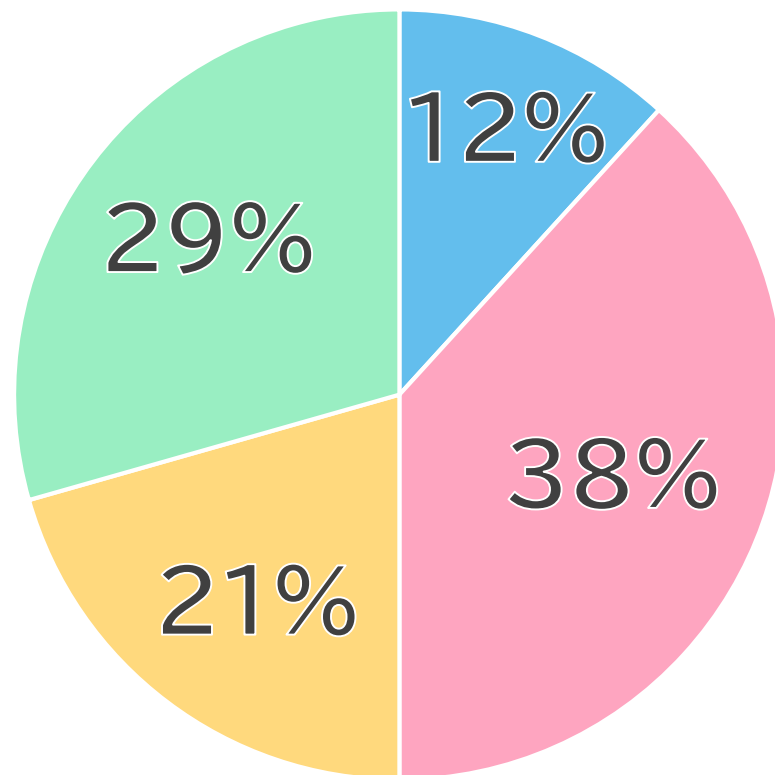
Q 「特例校」に通わせてみたいと思いますか

児童生徒(全体)



- 通ってみたい
- わからないが詳しい話を聞いてみたい
- 学校に通えているので、必要がない
- 通いたくない

児童生徒(休みがち&ほぼ欠席)



- 通ってみたい
- わからないが詳しい話を聞いてみたい
- 学校に通えているので、必要がない
- 通いたくない

「特例校」に通いたくない理由

Q 特例校に通いたくない理由は何ですか

自由記述回答例

【保護者】

- できればみんなと同じ学校に通わせたいため
- 地域の学校を優先させたい。
- 本人が学校に行けない状況が続き、転校したいと言ったら検討するかも。今は『特別扱いをされたくない』という気持ちが強いので選択肢にはない。
- 学校にも行きたくないが知らない人がいる学校に行くのはもっと嫌だと言うのでハードルが高い

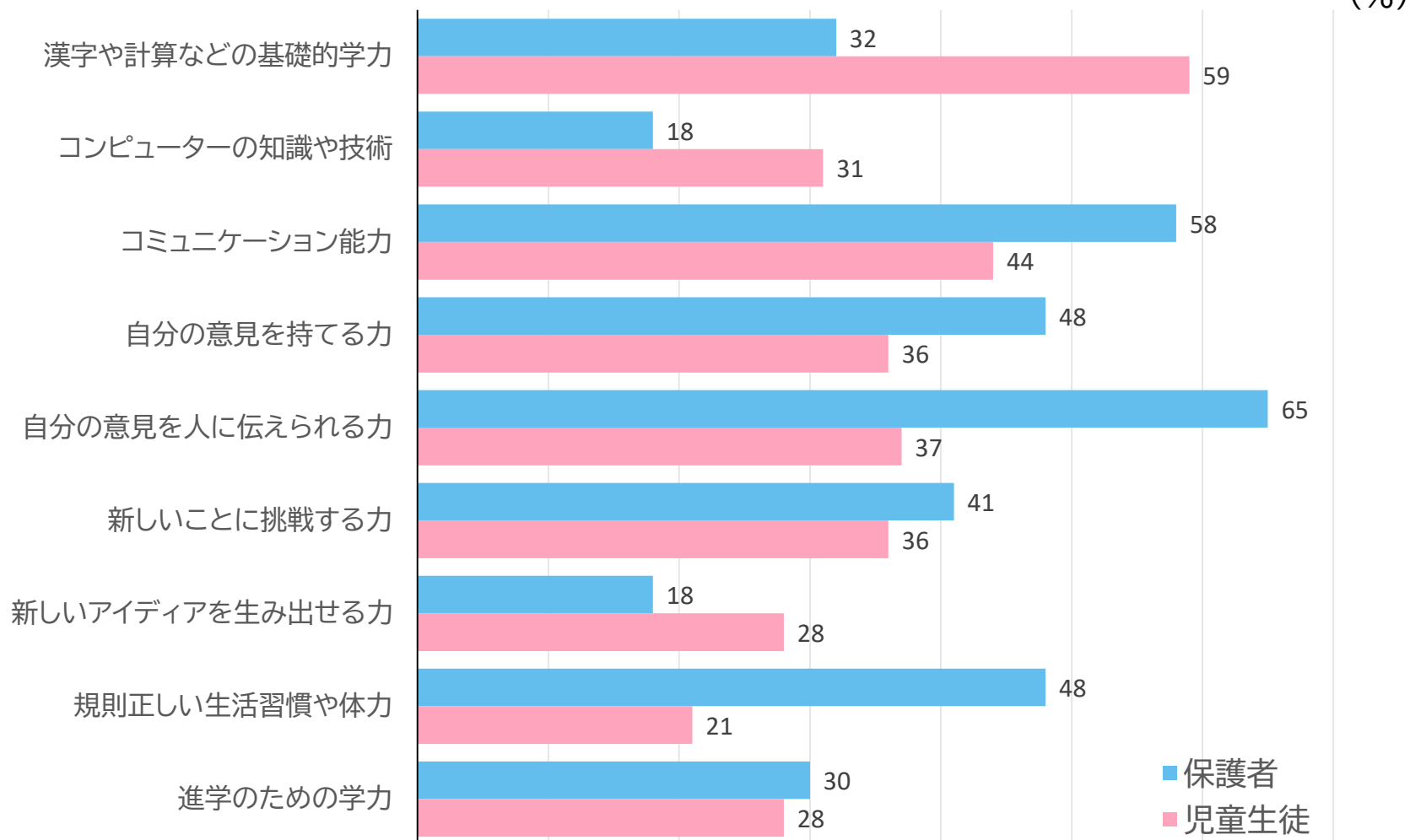
【児童生徒】

- 行く学校がもう親に決められているため
- 今普通に通えているから
- 人と関わりたくないから
- 友達と会えなくなるから

「特例校」の内容について

Q 「特例校」の教育で、どんな力や知識が身につくとよいと思いますか？最も大切だと思うもの3つを選んでください。

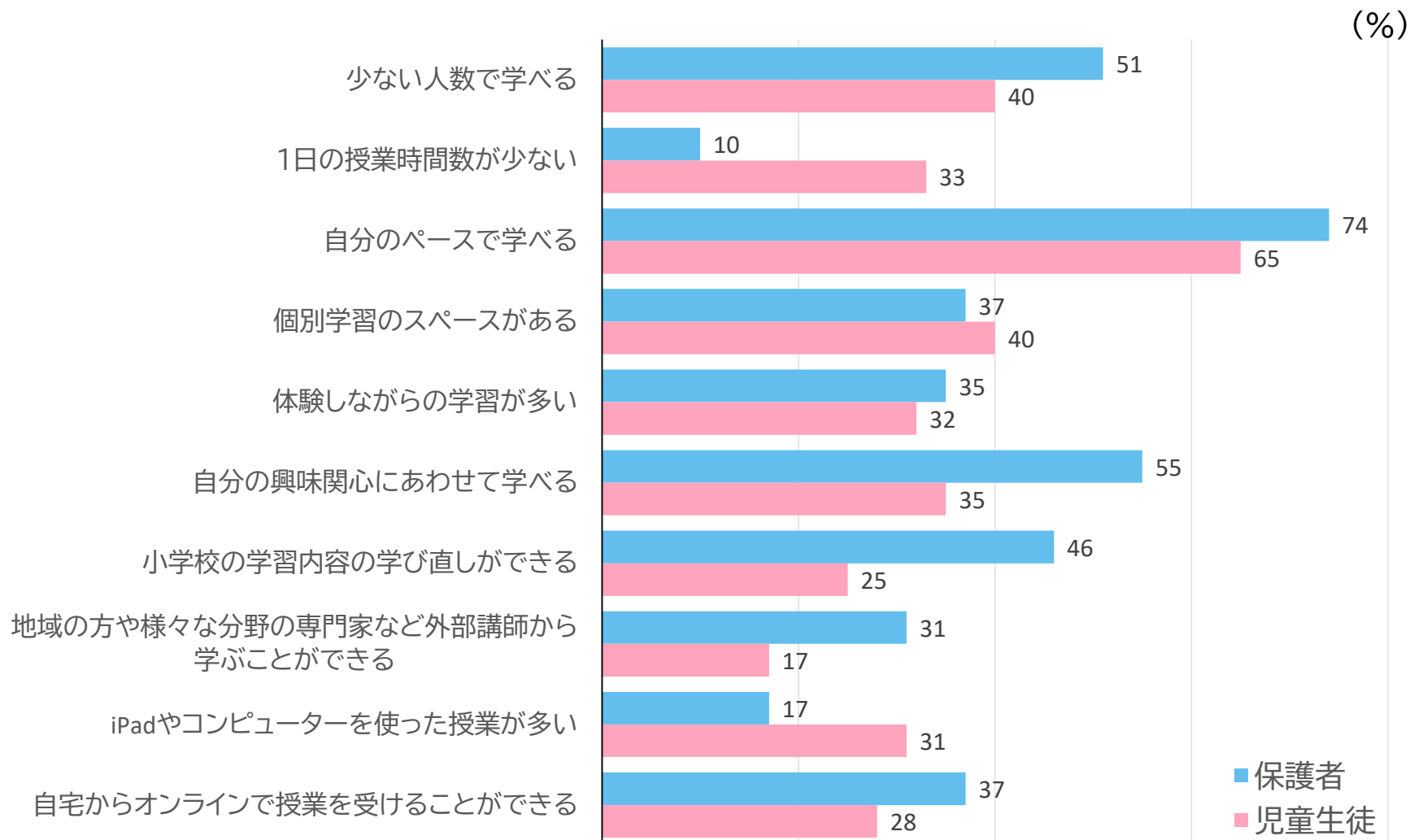
*複数回答可



「特例校」の学習について

Q 「特例校」の学習について期待したいことを選んでください

*複数回答可・自由記述あり



「特例校」の学習について

Q 「特例校」の学習について期待したいことを選んでください

その他の回答例(自由記述)

【保護者】

- 個性を伸ばしつつ、周りに安心して溶け込めるような指導が出来たら素敵だと思います
- 山や海などに出掛け自然の中で探究型学習ができるといいなと思います。
- 通うことを強制されない、自ら行きたくなる雰囲気
- 自分の好きな事、得意な事で何が出来るか？何が生み出せるか？など授業で成功体験を積み重ねて欲しい。学年にこだわらず、今やりたい事に仲間と一緒に取り組める環境が欲しい。
- 自分の気持ちに気づいて表現し、他人との違いを楽しむ学習や、好きなことを中心にした学びを起点に自分の自立や社会に出て行くことにつながるような学びをしてほしい。
- 子どもが「学びたい」と思えるカリキュラムを、それぞれの子どもに合わせて組み立てられる仕組みを取り入れること。

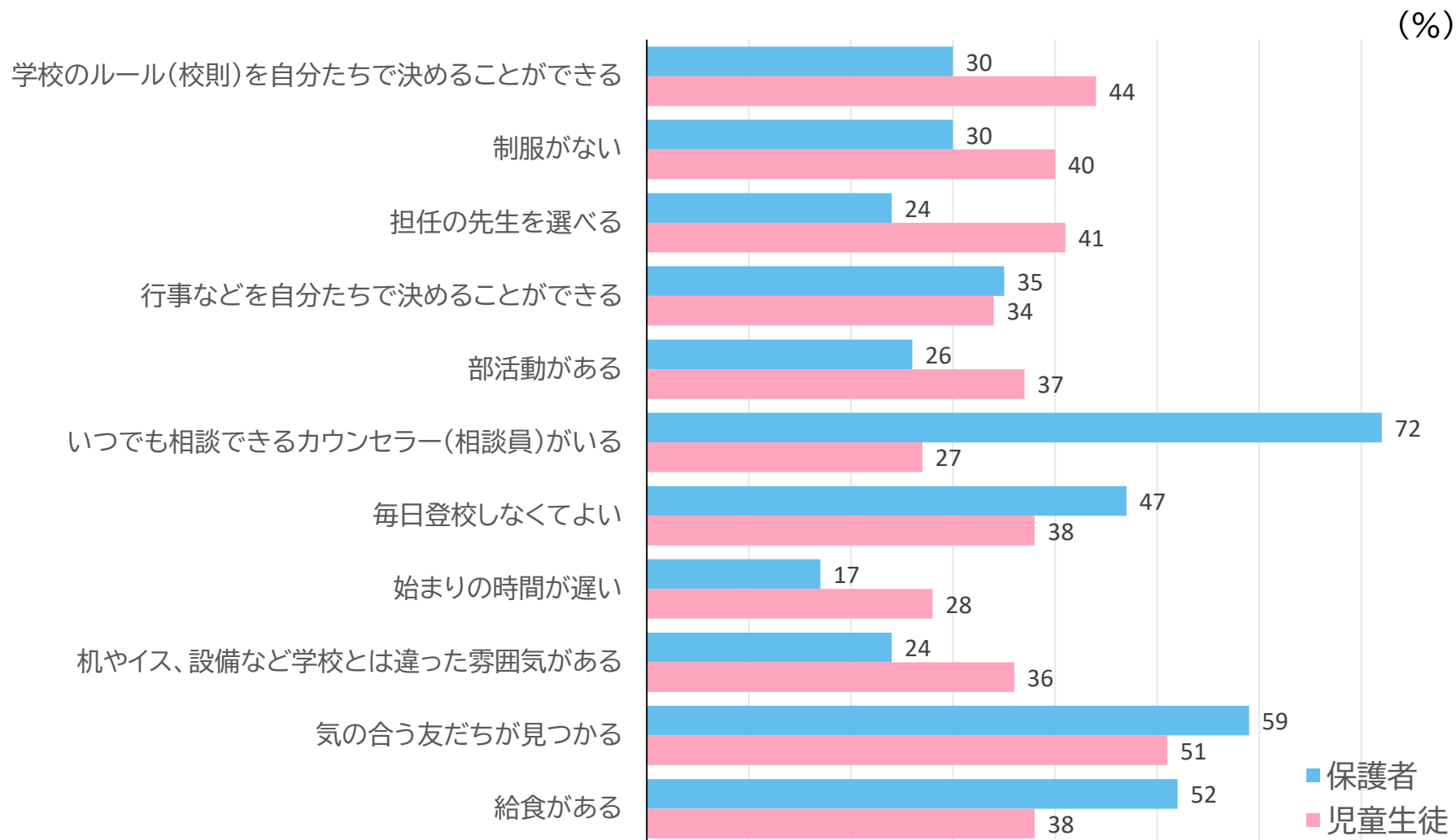
【児童生徒】

自由記述なし

「特例校」の生活について

Q 「特例校」の生活について期待したいことを選んでください

*複数回答可・自由記述あり



「特例校」の生活について

Q 「特例校」の生活について期待したいことを選んでください

その他の回答例(自由記述)

【保護者】

- 学びのねらい・スケジュールを自分で組み立てることができる
- 子どもの発達特性についての知識のある教員・大人の関わり。
- その時の気持ちで自分の居場所を選択出来るよう、雰囲気の違いが何箇所かあると良いと思います。
- 決まったルールを大人が与えるのではなく、自分達で考えながら相談してルールを作ったり、変更したり、問題を解決していけるようにしてほしい。失敗しても大丈夫な温かい雰囲気であってほしい。
- ネットでコミュニケーションを取ることができる
- 発達障害に配慮
- 外遊びが出来る
- 学校へ登校できていないということは、それぞれに事情があり、状況が違うので、枠にとらわれず、子どもに合わせたフレキシブルな生活ができるとよい。

【児童生徒】

- 先生が優しい
- 校外学習が多い
- あまり無理を強いられない

いろいろな学びの場づくり アンケート

～教室に入りづらい子どもたちへの支援の充実に向けて～

鎌倉市教育委員会
多様な学びの場づくり担当



10 多様な学びの場づくりについて

多様な学びの場づくりについて

Q その他、多様な学びの場づくりについて、ご意見等ありましたらお書きください

自由記述回答例

【保護者】

- いろいろな取り組みがあることを今回はじめて知ったので、もっと皆が理解し検討できるように広めてほしい
- 今は順調に小学校へ通えていても、中学校へ進学したら、先生が変わったら、お友達が変わったら突然通えなくなる事もあると思います。柔軟な対応をしていただけたらありがたいです。今の支援級と通常級クラスとの行き来が出来るような仕組みづくりもしてほしいです。
- このようなアンケート形式で答えていく中で色々な子供たちの学びへの支援があることを知れました。いい取り組みだと思います。学校や集団が苦手な子供たちもいきいき暮らせる市になるといいですね。
- どんな子どもも、とりこぼされない社会であってほしいし、保護者も負担が減るような、そんな仕組みがあるといいと思います。関わる誰かが負担になってはならないし、ひとりひとりの丁度いい仕組みがあるといいのだけれど。。。
- 以前子どもが短期間ですが不登校を経験しました。その時感じたのが、家以外との社会と繋がりがなくなってしまうことへの不安でした。自分の教室でなくても、家と家族以外と繋がってられる、それが学校であれば1番だと思いますが、在宅のオンライン授業などでも良いので、繋がれる環境と機会があれば、子も親も精神的に安心するし、前向きになれると思います。一般の子達に会わずに登下校出来、誰か先生が居てくれるスペース、あったら良いなと思います。

多様な学びの場づくりについて

【保護者】

- 我が子は今のところ何とか学校には行けているが、一時期、担任との相性やクラスの雰囲気や学校が好きではない、学校で楽しく学べていない時があった。不登校まではいかないが、そういう狭間の子どももこういった学びの場を柔軟に活用出来たらありがたいと思う。今は利用までが少しハードルが高く感じる。また、今回の「多様な学びの場」のアンケートで期待することの項目(体験学習や制服がないなど)が普通の公立の学校より内容が魅力的に思える。不登校ありきで考えてしまうが、登校出来ている子に対しても色んな学びの場、体験学習、少人数学習、自由な服装など選択出来たら良いなと思った。どんな子も今学校に通えてる子も一人一人尊重されるべきだと思う。学校内のフリースペースはぜひ早急に進めて頂きたい。教室に行くのが辛い子だけではなく、自分の感情をコントロールできない子がクールダウン出来る、寄り添ってくれる大人がいる場所などもあると良いと思う。先生がその子にかかりきりになって、他の子どもの学習に影響が出てしまうという状況も避けられると思う。
- 学校での生活に馴染めない子どもも、学校に行きたい、やりたいことが見つかるような、教科書による学習だけではない、幅広い学びが得られるような活動の場になることを望みます。教員不足が叫ばれる中での人員確保についても、鎌倉市ならではの共生社会の入口として、より充実した職員配置を望みます。既存の教員の業務負担を増やさないよう、専任職員や新たな立場の職員採用(非常勤教員、保育士、かまサポ、介助員等)など、十分な人件費の予算化を検討して欲しいです。子どもの学校内での安心できる居場所であると共に、不登校児童を育てる保護者にとっても、心が救われる居場所となるよう、保護者支援の一面も重視していただきたいです。鎌倉市の新たな取組、心より期待しています。
- 学校以外での学びの場があることで助かる子どもがいるのは良いことだが、最終的にはこの場がなくても、学校がみんなにとって心地よく、お互いを尊重し合える場になるようにしていけることも考えていきたい！

多様な学びの場づくりについて

【保護者】

- 学校に馴染めない子供たちは、色々なタイプの子供がいると思うので、馴染めなければこじかかないではなく、選択肢がたくさんあると可能性が広がると思います
- 学校以外の学び場があることがわかり、安心しました。本人に1番良い環境で日常を過ごすことができるなら、学校にこだわらなくてもいいと普段から感じております。
- 鎌倉の地域を生かした体験型の学びを全面的に行ってほしい。鎌倉の特性をもっとアピールしてもよいと思う。教師の質授業の質を上げ、子供が時間割に期待し、学校が楽しいと一回でも言ってほしい。
- 現在別室登校ですが 先生達のお力添えで様々な経験をさせてもらい、校内に安心できる居場所があり楽しく学校生活をすごせています。個人の状況にもよりますが 様々な人と交流ができ 学びが楽しいものとなるような 居場所が子供にあるといいなと感じています。
- 教室に入れない子への配慮を積極的に行なっていくことはとても良いことだと思います。ただ、今は授業中に立ち回ったり大声を出したり暴れる子のせいで、静かに真面目に勉強をしている子がストレスを抱えていたりします。学校に通えているから大丈夫、ではなく、教室に入れない子だけに配慮をするのではなく、無駄なストレスを抱えながら我慢しながら学んでいる子供への配慮を、もっとして欲しいです。
- 教室や、そういった場所・環境に行くことが難しい生徒もいると思うので、場合によっては自宅で学習することも選択できるとよいと思います。また、子どもが学校に行けない家庭においては、保護者が深い悩みを抱えていたり、親子間の関係がぎくしゃくしていることも考えられるので、そういった部分のフォローや保護者の不登校に対する理解を増進するための講習会？があってもいいのかもしれない。
- 姉妹が中学で不登校だった際、保健室に行くのも嫌だったので、カウンセラー室にもいけないので、由比ヶ浜に分校を作ってくれるのはありがたい。

多様な学びの場づくりについて

【保護者】

- 今は楽しく通っていますが、もし子供が学校に通いづらくなった時、このような取り組みがあると、親子共々焦らず次に向けて考えることができ安心します。
- 子供が少なくなっている今、個性を伸ばそうと言う風潮になり生きやすくなっている子が多くなったと思います。私自身学校へ通うことが出来ず辛い思いをしてきました。幸い子供達は毎日楽しく登校していますが、いつどうなるかわかりません。子供は素直で残酷です。学校でしか学べないこともあると思いますが、学校でなくても学べることもあります。立ち止まってもまた歩き出せる、道を間違えても戻ることができる、それを教えてくれる場所が家庭以外にもあると親子共々安心だと思います。このようなアンケートはこれからも学校を通してやってもらえると、安心して鎌倉市で生活できます。考えるきっかけを与えてもらい嬉しく思います。
- 子どもたち誰ひとり教育の機会を失うことなく、また少しでも多くの楽しい時間が過ごせる場を望みます。そのためにはさらにたくさんの教師や教師以外の人材が必要となるはずで、市には教育に関わる予算、人件費をもっと増やして充実させてほしいです。
- 市内全校が特例校になったら素敵だと思います。普通に教室に入れる我が子ですが、特例校に通えないのは残念です。
- 精神的ストレスから体調を崩して登校できなくなる場合があります。教室に入れる、入れないの問題ではない時、親子で深く悩みます。そこにいくまでに、こういった活動や学びの場で救ってあげてほしいです。
- 多様な学び場には様々なお子さんがいらっしゃると思います。中には特性の強いお子さんもいらっしゃると思います。こういう子どもに対して支援ができる大人を揃えて欲しいと思います。またアドバイスできる専門家が数名いることや、子どもの特性について講座を開く等、見守る大人が学べる環境を作って欲しいです。子どもたちを変えるのではなく、環境づくりをしっかりとっていただきたいと思っています。

多様な学びの場づくりについて

【保護者】

- 色々な個性を持つ子供達が、その個性に自信を持って生きて行けるようになってほしい。自分にしかできない、何かを見つけて幸せに暮らして欲しいと願っています。親である私も子供の個性は理解しているが、なかなかその個性を素晴らしい長所だと思えないシーンもあり、短所として怒ってしまう事も沢山ある。子供だけでなく、親の相談場所、親の学びの場所としても機能して頂けると良いと思います。
- 多様な学びの場を作っていこうという姿勢に、感謝いたします。子供達みんなが元気に自信を持ってのびのび過ごせることを願っています。
- 全員一律に、同じ事をさせる教育は辛いし、興味もわきにくい。個々に合わせた教育に切り替えてほしい。
- 大多数の子どもたちにとって最適なカリキュラムと効率的な集団指導による学び合いが多様性を育む教育の在り方と、個別かつ個性的なカリキュラムを必要とする子どもたちへの学びの提供は、分断されるべきではなく、その子の状況に合わせて行き来できるものであるべきだと考えます。校内フリースクールが、「校内にある別のスクール」ではなく、時間やタイミングによって、一般級と行きつ戻りつできる仕組みを望みます。
- 特例校だけに自由な学びの場を提供するのではなく、学校(特に中学校)にもう少し取り入れて頂きたい。そうでなければ根本的な解決には繋がらないと思います。
- 特例校や校内フリースペースの設置にとっても期待しています。当事者の子どもや家族の声をとにかく多くひろってほしい。現場の先生方が培った良いアイデアもどんどんひろってほしい。不登校の子にとって、学年で区切るやり方や受験の方式などが欠点や問題点となっている場合もあり、県や国が変えなければならないこともあるかもしれないが、鎌倉市が良い例として示せるようなまちになってほしい。

多様な学びの場づくりについて

【保護者】

- ひだまりも、特例校も、校内にある個別教室も全て、通える子(外に出られる子)対象だと思えます。不登校の子の中には、一步も外に出られない子もいます。その様な子にも学ぶ機会を作ってもらえたらありがたいです。
- もう少し早く多様な学び場が欲しかった
- 多様な学び場を作るとはとても大切だが、学校に行けない子、普通の学校に馴染めない子が行くところ、という結局は差別区別があるように思う。子供自体も学校に行けない自分ということに劣等感を感じているし、それは受け入れるのに時間がかかるし、勇気がいる。子供も親もそのこと自体に少なからず傷つくような気がします。そうではなく公立小中高等学校において、子供たちが通いたくなるような、多様性を受け入れる環境が欲しい。不登校になってからではなく、ならない様な支援をして欲しい。
- このようなアンケートを実施して下さい、ありがとうございます。教室に居づらい気持ちなどを、騒いだりする形で表現するお子さんもいます。そのようなお子さんの居場所も提供されると良いなと思っています。難しさはあると思いますが、新しく作られる居場所が「できない子が行く場所」ではなく、「自分に合わせて選んで行く場所」になると嬉しいと思います。
- 各学校にフリースペースができるとの事、歓迎します。教室の広さなど物理的にも、見守る大人の数など心理的にも、子どもたちが充実し安心して過ごせるスペースになる事を、切に願います。
- 子供の気持ちをありのままに受け止めてくれる大人(カウンセラー、支援員の先生など)がいてくれることが、子供からすると安心感、大人への信頼へ繋がります。どんな境遇の子にも居場所を作ってあげて欲しいし、そういう事のために税金を使って欲しいです。
- 今は元気に通えている子も、突然通えなくなることもあるかもしれない、そんな時にも、みんなが安心して自分らしく過ごせる場所はとても重要だと思います。

多様な学びの場づくりについて

【児童生徒】

- ヤングケアラーの子供とか発達に障がいがある子供が教室に隠れていることがあるので調査をして実態解明をしてほしいです
- 学校で、いじめ等を受けたりして不登校という状態に落ち込んでしまったり、行きたくないという人たちに、安心して充実な環境や学びをつくるという鎌倉市の対応に賛成します。
- おやつが食べられる。YouTubeが見れる。いつでも入れるプール。
- 朝休みや休み時間などに図書室以外で勉強(自習)できる場所がほしいです
- いじめや不登校のひとが学校や家でも楽に気軽に勉強やコミュニケーションが、取れる場所がもっと沢山できて欲しい
- つらいとき1人になれる場所がほしい
- 今の私にはいろんな学びの場があっても利用する機会がないけど誰でも気軽に学ぶことができる場所はたくさんあればあるほどいいなと思いました。